YAMAHA



25B
30H

船外機取扱説明書

⚠ 船外機をご使用になる前に取扱説明書をよくお読みになりお使いください。

058323

69R-28199-08

JMU25052

船外機の取り扱いをする前に、本書に十分目を通してください。航海する時は、本書を防水バッグなどに入れて、お客様のボートの適切な場所に保管してください。船外機を売却される場合は、本書を添付してください

JMU30125

お客様へ

ヤマハ船外機をお買い上げ戴きまことにありがとうございます。
この取扱説明書は、船外機の正しい取り扱い方法と簡単な点検、整備について説明してあります。
万一、取り扱いを誤ると重大な事故や故障等の原因となります。
船外機の取り扱いを十分ご存知の方も製品独自の装備や取り扱いがありますので、ご使用される前には本書を必ずお読みいただき、またご使用時には携帯し安全快適なマリンライフをお楽しみください。
本書では正しい取り扱い、および点検整備に関する必要な事項を下記のシンボルマークで表示しています。

⚠ 安全に係わる注意情報を意味しています。

EWM00781

⚠警　告

取り扱いを誤った場合、死亡または重傷及び傷害に至る可能性がある場合を示しています。

JCM00701

注　意

取り扱いを誤った場合、船外機または他の物的損害に至る可能性がある場合を示しています。

要　点

正しい操作の仕方や点検整備上のポイントを示してあります。

- 仕様の変更などにより、図や内容が一部実機と異なる場合がありますのでご了承ください。
- 本書は大切に保管し、船外機の転売や譲渡等をされる場合は必ず添付してください。
- 保証書はよくお読みいただき裏面の取扱店名、捺印をご確認のうえ、大切に保存してください。
- **製品を長くご愛顧頂く為に**
  この取扱い説明書に従った製品の正しい取扱いや、指定の定期点検／保守を行っていただくことを推奨致します。上記の注意事項に従わずに何らかの損害が発生した場合、保証の対象外になりますのでご注意ください。
- **製品を国外へ持ち出しのお客様へ**
  国によっては法令／規制の関係で持ち出す事が出来なかったり、登録出来なかったりする可能性があります。また、保証が一部地域で適用されない場合もございます。もしお客様が製品を国外へ持ち出して使う場合は、詳細を購入販売店に相談してください。
- **製品の個人転売を受けたお客様へ**
  お客様再登録のため最寄の販売店にご相談していただき、所定のサービスを受けられる様にしてください。

ご不明な点や不具合なところがありましたら、お早めにお買い上げのヤマハ取扱店にご相談、またはお申しつけください。
ヤマハ取扱店では、お客様の良きアドバイザーとしてご来店をお待ち申し上げております。

要　点

本書では内容や図は 25BWH, 30HWH を基本に標準的な装備品を想定して説明しております。モデルや仕様によっては適合しない項目もあります。

目次

安全にご使用するにあたって 1
安全にお使いいただくために 1
プロペラ 1
回転部品 1
高温状態の部品 1
感電の危険性 1
カールコード 1
ガソリン 1
ガソリンの蒸発と流出の注意 1
一酸化炭素 2
改造 2
航行の安全性 2
飲酒と薬の服用について 2
ライフジャケット 2
遊泳者への注意 2
乗客 2
過積載 2
衝突の回避 2
天候 3
乗船客の訓練 3
ボート航行の安全に関する告知 3
法令および規制 3
お使いいただく前に 4
製造番号の記録 4
船外機製造番号 4
マニュアル類と製品安全ラベルをお読みになってください 5
警告ラベル 5
基本事項と仕様諸元 8
仕様諸元 8
取り付けに関する項目 9
ボートの定格馬力 9
船外機の取り付け 9
バッテリに関する項目 9
バッテリの仕様 9
バッテリの設置 9
複数のバッテリを使用する 9
レクチファイアまたはレクチファイアレギュレータ無し仕様 10
プロペラ 10
始動安全装置 11
エンジンオイルに関する項目（2 サイクル用） 11
ギヤオイル 11
燃料に関する項目 11
ガソリン 11
泥水または酸性水 12
船底の清掃 12
船外機の廃棄に関する項目 12
非常時の装備 12
部品 13
各部の名称 13
燃料タンク 13
燃料ホースコネクタ 14
燃料計 14
燃料タンクキャップ 14
エアベントスクリュ 14
ティラハンドル 14
ギヤシフトレバー 14
スロットルコントロールグリップ 14
スロットルインジケータ 15
スロットルフリクションアジャスタ 15
緊急エンジン停止スイッチ 15
エンジン停止ボタン 16
チョークノブ（プルタイプ） 16
手動始動ハンドル 16
エンジン始動ボタン 16
ステアリングフリクションアジャスタ 16
トリムタブ 17
チルトピン 17
浅瀬航走レバー 17
チルトロック機構 17
チルトサポートノブ 18
トップカウル脱着レバー（回転式） 18
船外機の取り付け 19
船外機の取り付け 19
船外機の取り付け 19
船外機の取り付け 20
運転と操作 21
最初にエンジンを始動する時 21
慣らし運転 21
ボートをよく知ろう 21
始動前点検 21
燃料量 21
トップカウリングの取り外し 22
燃料系統 22

目次

可動部分の点検 22
カールコード 22
オイル 23
エンジン本体 23
トップカウリングの取り付け 23
バッテリ 23
燃料とオイルの給油 24
燃料タンクへの給油 24
ガソリンとエンジンオイルの混合（50:1） 24
エンジン操作 25
燃料供給（燃料タンク別体仕様） 25
エンジン始動 26
エンジン始動後の点検 29
冷却水 29
暖機運転 30
チョーク始動仕様 30
暖機運転後の点検 30
シフト操作 30
ストップスイッチ 30
前進／後進 30
停船 31
エンジン停止 31
停止ボタン仕様 31
船外機トリム角度 32
トリム角度の調整（マニュアルチルト仕様） 33
トリム角度の設定とボートの取り扱い 33
チルトアップ／ダウン 34
チルトアップ（マニュアルチルト仕様） 34
チルトダウン（マニュアルチルト仕様） 35
浅瀬航走 35
浅瀬航走（マニュアルチルト仕様） 35
他の航走状況 36
点検と整備 38
運搬と保管 38
クランプハンドル取り付け機種 38
長期保管 38
保管手順 39
船外機の清掃 39
船外機外装の点検 40
定期点検 40
シビアコンディション時の取扱い条件 40
定期点検表 41
定期点検表 43
グリス給脂箇所 44
スパークプラグの点検 44
燃料フィルタの点検 45
アイドリングスピード（無負荷最低速回転）の点検 45
配線と各接続部の点検 46
プロペラの点検 46
プロペラの取り外し 47
プロペラの取り付け 47
ギヤオイルの交換 47
専用燃料タンクの清掃 48
アノードの点検 49
バッテリの点検（電動始動仕様） 49
バッテリの取り付け 50
バッテリの取り外し 50
付属工具と部品 51
不具合時の対応 52
故障と対策 52
応急処置 55
衝撃を受けた場合 55
ヒューズの交換 55
始動装置が作動しない場合 56
応急始動 56
船外機を水中に落とした場合 57
ご相談窓口 58
お客様ご相談窓口のご案内 58

⚠ 安全にご使用するにあたって

JMU33622

安全にお使いいただくために

船外機特有の安全に係わる特性を、以下に記述します。危害を避けるために、指示された内容を守ってください。

JMU36500

プロペラ

プロペラに接触すると、負傷または死亡する恐れがあります。船外機のシフトが中立（ニュートラル）の時でもプロペラは回転を続ける可能性があります。またプロペラが止まっている状態でも、鋭利な縁で身体を切る恐れがあります。

- ボート付近に遊泳者がいるときは、直ちにエンジンを停止してください。
- エンジンが停止している時でも、プロペラの回転範囲内に近づかないようにしてください。

JMU33630

回転部品

手や足、髪、装身具、衣服、ライフジャケットのストラップなどが、エンジン内部の回転部品に挟まれたり、あるいは巻き込まれて負傷したり死亡する危険があります。

トップカウリングは、可能な限り取付けておいてください。エンジンを回転させたままトップカウリングを外したり、交換したりしないでください。

カウリングを外してエンジンを始動する時は、本書に示された手順に従ってください。カウリングを外した時は、手や足、髪、装身具、衣服、ライフジャケットのストラップなどを可動部品に近づけないでください。

JMU33640

高温状態の部品

エンジン回転中および停止直後は、エンジンの各部品が高温状態で、火傷の恐れがあります。エンジンが冷えるまでは、トップカウリング内の各部品に手を触れないでください。

JMU33650

感電の危険性

運転中は、電装品には触らないでください。感電したり、感電死する恐れがあります。

JMU33671

カールコード

カールコードは、お客様が誤ってボートから水中に落ちた場合や、舵から手が離れた場合に、エンジンを停止できるよう衣服の丈夫な場所や手、足に確実に結んでください。こうすることにより、ボートが無人で航行することを防止し、また遊泳者や物に乗り上げることを防止できます。

エンジン回転時には、カールコードを、衣服の安全な部分、腕、または足に常に結んでいてください。ボートの航行中に、カールコードをほどいて、舵から手を離さないでください。誤ってカールコードを引くことがないように、カールコードを衣服の外れやすい部分に結んだり、絡まりやすい場所を這わさないようにしてください。

カールコードは、誤って引っ張られることがないような場所を這わせてください。エンジンの回転中にカールコードを引くと、エンジンが急停止し、お客様は操舵ができなくなります。また、ボートの速度が急速に低下し、乗船者や物が船外に投げ出されます。

JMU33810

ガソリン

ガソリンは引火性です。火災や爆発の危険を避けるために、給油は 25 ページの手順に従ってください。

JMU33820

ガソリンの蒸発と流出の注意

ガソリンをこぼさないように、取り扱いには十分に注意して行なってください。万一ガソリンがこぼれた場合は、乾いた布ですぐに拭き取ってください。ガソリンを拭いた布は、正しい方法で廃棄してください。

ガソリンがこぼれて皮膚についた場合は、ただちに石けんと水で洗い流してください。ガソリンが着衣に付着した場合は、着替え等を行ってください。

誤ってガソリンを飲み込んだ場合、気化したガソリンを大量に吸い込んだ場合、またはガ

ソリンが目に入った場合は、ただちに医師の診断を受けてください。決して、ホースの端を口にくわえてガソリンを吸い上げたりしないでください。
JMU33900

一酸化炭素

排気ガスは一酸化炭素を含み中毒をおこす恐れがあります。ボートハウスなどの閉め切った場所ではエンジンを始動させないでください。
JMU33780

改造

船外機は改造しないでください。船外機を改造すると安全性や信頼性が低下し、危険なだけでなく法律違反となります。
JMU33740

航行の安全性

この項では、航行時に守らなければならない安全上の大切な注意事項が示されています。
JMU33710

飲酒と薬の服用について

飲酒または薬を服用した後は、ボート操縦しないでください。ボートの死亡事故のもっとも一般的な原因の一つが、酔った状態での操舵によるものです。
JMU33720

ライフジャケット

認定されたライフジャケットを人数分、ボートに備えてください。乗船者はライフジャケットの着用が義務付けられています。少なくとも、お子さんや泳げない人はライフジャケットを常に着用しなければならず、また航行に潜在的な危険を伴う場合は全員がライフジャケットを着用しなければなりません。
JMU33730

遊泳者への注意

航行中は、スキーヤー、ダイバーなどの遊泳者に注意を払ってください。ボート付近に遊泳者がいるときは、中立（ニュートラル）に切り換え、エンジンを停止してください。遊泳者は見えにくいので海水浴場には近づかないこと。
エンジンが回転している時は、水泳、水上スキー、ダイビングなどをしている遊泳者に常に注意してください。
JMU33750

乗客

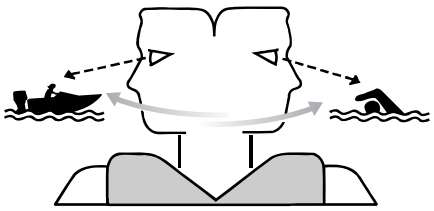
ボートに乗船する際の乗客の適切な場所については船体製造メーカーの説明書の指示にしたがってください。そしてアイドリングスピード以上で運転するときは、乗客全員が適切な場所に落ち着いたことを確認してから、加速してください。立っていたり指定外の場所に座ったりすると、波、他船の航跡、あるいは速度や進路の急激な変更のために、船外や船内に投げ出されることがあります。人々が適切な場所に座っていても、普段と違う操作をしなければならない場合は、乗客にそのことを警告してください。また、逆立つような波や航跡も避けて航行してください。
JMU33760

過積載

ボートの積載量が超過しないようにしてください。ボートの最大積載量や定員に関しては、ボートに取付けられた銘板を参照するか、船体製造メーカーにご照会ください。ボートメーカーの指示内容に従い、重量を正しく分散するようにしてください。過積載または重量の偏りがあると、ボートの操船が難しくなり、事故、転覆、浸水の原因になります。
JMU33771

衝突の回避

他の遊泳者、障害物、他の船舶を**常に見張るようにしてください。**視界を妨げる条件や、視野が制限されたり、妨げられたりする状況には警戒してください。



ZMU06025

他の遊泳者、障害物、他の船舶から十分に安全な距離を保ち、**回避できる安全な速度や距離を保って航行してください。**

- 他の船舶や水上スキーをしている人の背後を追走しないでください。
- 急旋回等、周囲の操船者が予想困難な航行は行わないでください。
- 水中物体のある水域や浅水域の航行は避けてください。
- 制御不能、衝突や、海に投げ出されたりするリスクを小さくするため、ご自身の能力の範囲内で運転し、無謀な操縦は避けてください。
- 衝突を避けるために、**早めの対処をしてください。ボートにはブレーキがなく**、またエンジンを停止したりスロットルを戻したりすると、操舵力が低下することを忘れないでください。障害物に衝突する前に停止するかどうか確信が持てない場合は、スロットルを入れて別方向に進んでください。

JMU33790

天候

常に最新の天候を知るようにしてください。出航する前に天気予報を確認してください。荒天時には決して出航しないでください。

JMU33880

乗船客の訓練

少なくとも 1 人の乗船客が、緊急時にボートを操舵する訓練を受けていることを確認してください。

JMU33890

ボート航行の安全に関する告知

ボート航行の安全に関する情報を常に入手してください。詳しい発表内容や情報は、ボート航行の安全のための多くの組織から入手できます。

JMU33600

法令および規制

ボートで航行する場合は、航行するに関する法律および規則を理解し、それに従ってください。地域によっては一部の規則が優先されますが、基本的にはすべて International Rules of the Road(国際海上航行規則) と同じです。

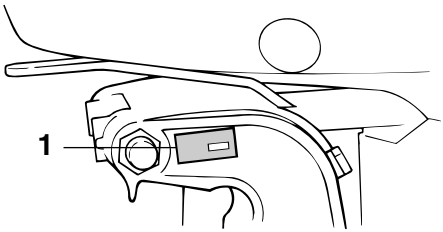
JMU25171

製造番号の記録

JMU25183

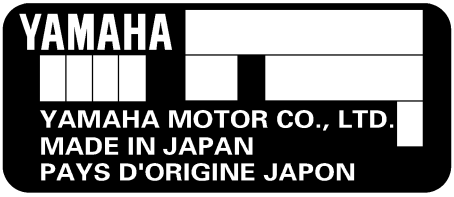
船外機製造番号

製造番号は、クランプブラケットの左舷側に貼ってあります。
ヤマハ取扱店への部品注文の際や盗難にあったときのために、空欄に番号を控えておくと便利です。



ZMU02931

1. 船外機製造番号貼付場所



ZMU01692

JMU33520

マニュアル類と製品安全ラベルをお読みになってください

船外機をご使用または整備を始める前に :

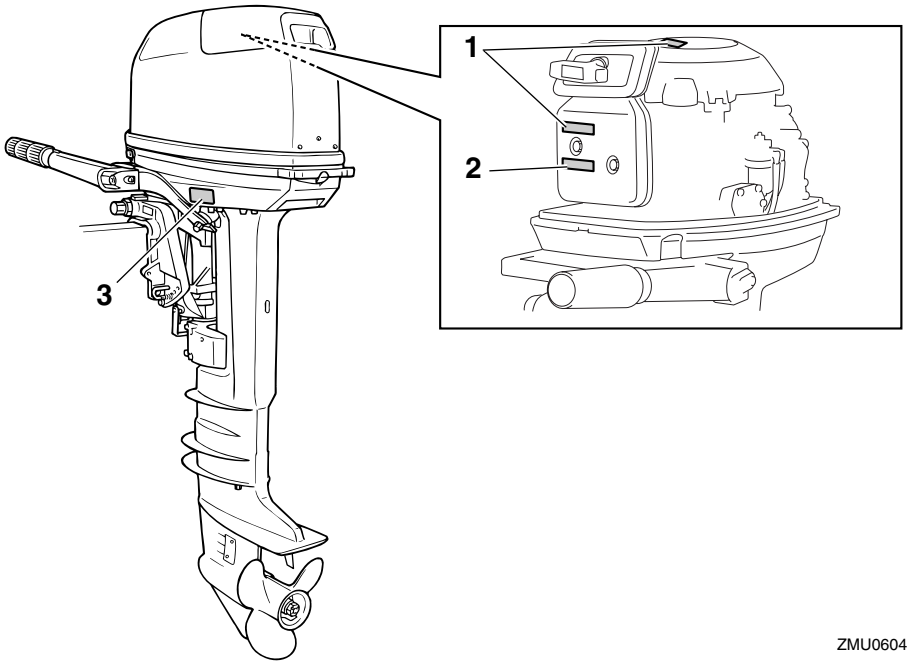
- 本書をお読みください。
- お客様のボートに備えられているマニュアル類はすべてをお読みになってください。
- 船外機とボートのすべてのラベルをお読みになってください。

ご不明な点があれば、ヤマハ販売店にご相談ください。

JMU33831

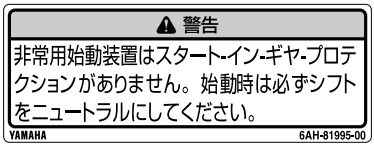
警告ラベル

警告ラベルが損傷または紛失している場合は、ヤマハ取扱店で交換してください。

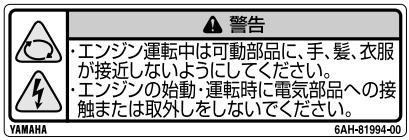


ZMU06042

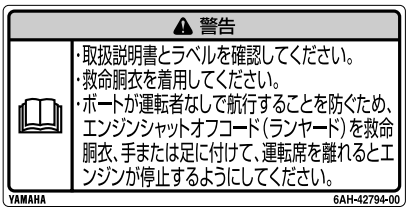
1



2



3



ZMU05725

JMU35132

シンボル

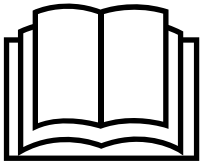
以下のシンボルは次のような意味を示します。

注意／警告



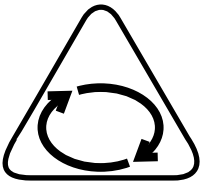
ZMU05696

マニュアル熟読



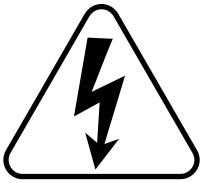
ZMU05664

回転物注意



ZMU05665

感電注意



ZMU05666

JMU31480

仕様諸元

要　点

下記の仕様諸元内の“(アルミ)”は、アルミプロペラ装着時の数値を示します。
同様に“(ステンレス)”は、ステンレスプロペラ装着時、“(プラスチック)”は、プラスチックプロペラ装着時の数値を示します。

JMU30616

寸法 :

全長 :
843 mm
全幅 :
399 mm
全高　L :
25BWH 1268 mm
30HWH 1273 mm
全高　Y :
1320 mm
全高　X :
30HWH 1359 mm
トランサム高さ　L :
550 mm
トランサム高さ　Y :
598 mm
トランサム高さ　X :
30HWH 636 mm
重量　(アルミ)　L :
58.0 kg
重量　(アルミ)　X :
30HWH 60.0 kg
重量　(アルミ)　Y :
59.0 kg

性能 :

全速回転範囲 :
4500–5500 r/min
最高出力 :
25BWH 18.4 kW@5000 r/min
30HWH 22.1 kW@5000 r/min
アイドリングスピード (中立時) :
1250 ± 50 r/min

エンジン :

エンジン種別 :
2 ストローク L
総排気量 :
496.0 cm^3
内径 x 行程 :
72.0 × 61.0 mm
点火方式 :
ＣＤＩ
スパークプラグ　(ＮＧＫ):
25BWH B7HS-10
30HWH B8HS-10
ギャップ　(隙間):
0.9–1.0 mm
操作系方式 :
ティラー
始動方式 :
手動と電動
始動系 :
チョークバルブ
バッテリ容量 (上限ー下限):
32C24–65D31
最大発電出力 :
6.0 A

ドライブユニット :

ギヤシフト位置 :
F-N-R
減速比 :
2.08 (27/13)
トリム / チルト方式 :
マニュアルチルト
プロペラマーク :
F

燃料とオイル :

推奨燃料 :
無鉛レギュラーガソリン
燃料タンク容量 :
24 L
推奨エンジンオイル :
ヤマハ船外機 ＳＳ オイル

混合比 (燃料：オイル)：
無鉛レギュラーガソリン :
50 :1
潤滑方式 :
混合潤滑
推奨ギヤオイル タイプ :
船外機ギヤオイル
ギヤオイル容量 :
0.320 L
締付トルク :
スパークプラグ :
25.0 Nm (2.55 kgf-m)
プロペラナット :
35.0 Nm (3.57 kgf-m)

JMU33553

取り付けに関する項目

JMU33563

ボートの定格馬力

JWM01560

⚠警　告

船体の最大搭載馬力を越える船外機を取り付けて航行すると、ボートが極度の不安定になる可能性があります。

単機または複数の船外機を取付ける前に、船外機の合計馬力が船体の最大搭載馬力を越えていないか確認してください。ボートの銘板を参照するか、船体の製造業者に照会してください。

JMU33571

船外機の取り付け

JWM01570

⚠警　告

- **船外機が正しく取り付けられていない場合、操船がしにくくなったり、制御不能や火災などの危険な状況を引き起こしかねません。**
- **船外機は非常に重いものですから、安全に取り付けるためには、特殊な機器と訓練が必要です。**

船外機の取り付けは、ヤマハ販売店または船外機取り付けの経験を積んだ人が正しい機器を使用し、詳細なリギングに関するマニュアルを参照しながら行なってください。詳細は、19 ページを参照ください。

JMU25694

バッテリに関する項目

JMU25713

バッテリの仕様

以下の仕様を満たすバッテリをフル充電し使用します。バッテリの電圧が低下した場合は、エンジンを始動できません。

JIS 規格 :
32C24–65D31

JCM01061

注　意

規定の容量に合わないバッテリは、使用しないでください。規定容量外のバッテリを使用すると、電装系に供給電流が不足したり、過大な負荷が掛かったりして故障の原因になります。

JMU36290

バッテリの設置

バッテリホルダーは船内の乾燥した、換気の良い、振動の少ない水平な場所に確実に固定してください。周辺には可燃物、重量物または金属類を置かないようにします。**警告！バッテリーと同じコンパートメントに火災性のあるもの、不安定な重い物、金属物を入れないでください。火災、爆発または火花が発生することがあります。**[JWM01820]

JMU36300

複数のバッテリを使用する

複数船外機設定時や予備バッテリなど複数のバッテリを接続する場合は、バッテリの選択と結線については最寄りのヤマハ取扱店にご相談ください。

JMU25730

レクチファイアまたはレクチファイアレギュレータ無し仕様

JCM01090

注　意

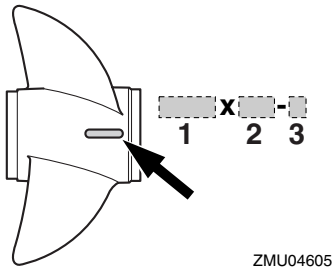
レクチファイア、またはレクチファイアレギュレータが付いていない仕様は、バッテリの取付けは出来ません。

バッテリを取付ける場合は、レクチファイアレギュレータを取付けてください。
メンテナンスフリーバッテリの使用はバッテリの寿命を縮める恐れがあります。
魚群探知機などのアクセサリーに接続する場合は、高電圧により、故障の原因となる恐れがあります。オプションのレクチファイアレギュレータを取付けるか電源の電圧が18ボルト以上に耐えるアクセサリーを使用してください。レクチファイアまたはレクチファイアレギュレータの取付けについては、ヤマハ販売店にご相談ください。

JMU34191

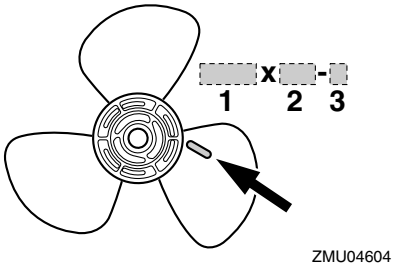
プロペラ

船外機艇の選定の次に、船外機の航走性能は、プロペラの選び方によって大きく影響を受けます。プロペラのタイプ、サイズ、それにデザインは、加速力、燃費のよしあし、そしてエンジン寿命にも、直接影響してきます。ヤマハは、それぞれのヤマハ船外機とそれぞれの用途に対応するプロペラを設計、製造しています。
船外機には、すべての用途範囲にわたり優れた性能を発揮するように選ばれたヤマハ・プロペラが取り付けられています。ただし用途によっては、別のプロペラの方がもっと相応しい場合もあるかもしれません。
ご担当のヤマハディーラーが、用途に応じたプロペラを選択するお手伝いをいたします。最大ボート負荷状態でフルスロットル時に、運転範囲の半ばかそれ以上に達することができるプロペラを選択してください。一般的には、小さい運転負荷に対してはピッチの大きいプロペラ、大きい負荷に対してはピッチの小さいプロペラを選んでください。ボート負荷が大きく変動する場合は、最大負荷時に妥当な範囲で運転するプロペラを選ぶとよいでしょう。ただし、ボート負荷が小さいとき、推奨エンジン速度範囲内にとどまるように、スロットルの設定を引き下げる必要があるかもしれません。ご注意ください。
プロペラの取り付け、および取り外しに関しては、46 ページを参照ください。



ZMU04605

1. プロペラ直径（インチ）
2. プロペラピッチ（インチ）
3. プロペラの種類（プロペラマーク）



ZMU04604

1. プロペラ直径（インチ）
2. プロペラピッチ（インチ）
3. プロペラの種類（プロペラマーク）

JMU25770

始動安全装置

ヤマハ船外機または専用リモートコントロール装置には、ギヤが前進または後進に入っているときはエンジンの始動ができないように、安全装置が装備されています。エンジンを始動する際は、シフトを必ず中立（ニュートラル）にしてから行なってください。

JMU25651

エンジンオイルに関する項目（2 サイクル用）

推奨エンジンオイル；
ヤマハ船外機オイル、またはヤマハ船外機スーパースペシャルオイル（ヤマハ船外機 SS オイル）



ZMU04539

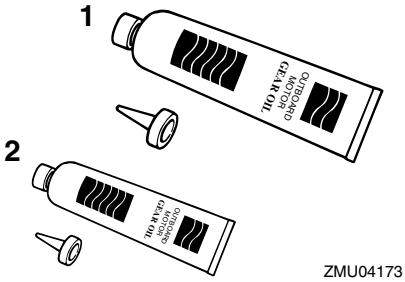
1. 部品番号　90790-70416 (0.5L)
2. 部品番号　90790-70415 (1L)
3. * 部品番号　90890-6382H (0.4L)
4. * 部品番号　90890-6382E (1L)
5. * 部品番号　90890-6382G (4L)

（注）* はヤマハ船外機 SS オイルを示す。

JMU30100

ギヤオイル

推奨ギヤオイル；
ヤマハ船外機ギヤオイル、またはハイポイドギヤオイル (SAE90)



ZMU04173

1. 部品番号　90790-73603 (750ml)
2. 部品番号　90790-73602 (350ml)

JMU36360

燃料に関する項目

JMU36780

ガソリン

JCM01980

注　意

- **有鉛ガソリンを使用しないでください。有鉛ガソリンは損傷を与える恐れがあります。**
- **燃料タンク内に水や不純物が入らないようにしてください。不純物を含んだ燃料は性能低下やエンジンの損傷を招く恐れがあります。必ず、清潔なタンクに保管した新しくきれいな燃料を使用してください。**

推奨ガソリン；
無鉛レギュラーガソリン

JMU36880

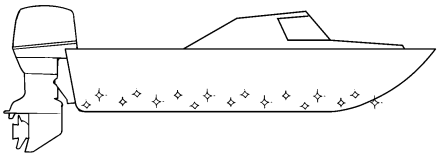
泥水または酸性水

泥水域または酸性水域で船外機をご使用になる場合は、最寄のヤマハ取扱店で別売のクロームメッキウォータポンプキットを取り付けいただくことを、強くお勧めします。別売のクロームメッキウォータポンプキットは船外機によって入手出来ない場合があります。

JMU36330

船底の清掃

船底の状態によってボートの性能は大きく変わります。船底の状態は、海藻や貝類が付着しないように常にきれいに保っておくことが必要です。必要で有れば、船底専用塗料を塗っておくと海藻や貝類が付着しにくくなります。塗料については、ヤマハ取扱店へお問い合わせください。



ZMU05176

JMU36340

船外機の廃棄に関する項目

船外機を不法投棄しないでください。エンジンの廃棄についてはヤマハ販売店にご相談ください。

JMU36351

非常時の装備

エンジン故障に備えて以下の物を船内に常備しておいてください。

- 各種スクリュードライバ、プライヤ、レンチ（メートルサイズ分を含む）および絶縁テープ
- 防水フラッシュライトと予備バッテリ
- クリップ付き予備カールコード
- スパークプラグのスペアセットなどの交換部品

詳しくは、ヤマハ取扱店にご相談ください。

部品

JMU2579H

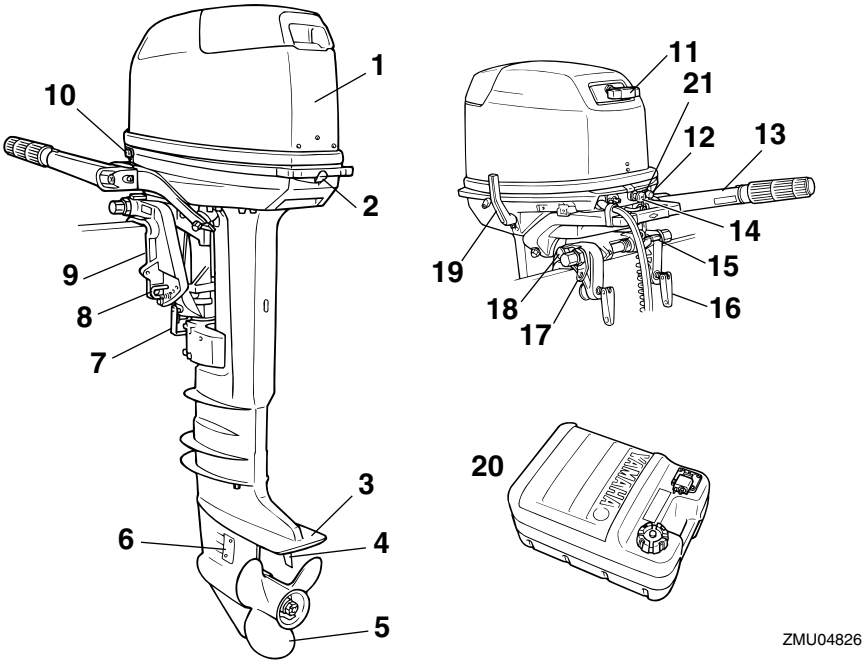
各部の名称

要　点

燃料タンク、リモコン関連、メータ類、およびプロペラ等の備品はオプションとなっている場合があります。詳しくは、ヤマハ取扱店へお問い合わせください。

(*) 仕様により異なります。

25B, 30H



ZMU04826

1. トップカウル
2. トップカウル脱着レバー
3. キャビテーションプレート
4. トリムタブ
5. プロペラ
6. 冷却水取入口
7. 浅瀬航走レバー
8. チルトピン
9. クランプブラケット
10. エンジン始動ボタン
11. 手動始動ハンドル
12. エンジン停止ボタン／緊急エンジン停止スイッチ
13. ティラハンドル
14. チョークノブ
15. チルトロックレバー
16. トランサムクランプハンドル
17. ロープアタッチメント
18. チルトサポートノブ
19. ギヤシフトレバー
20. 燃料タンク
21. ロックプレート

JMU25802

燃料タンク

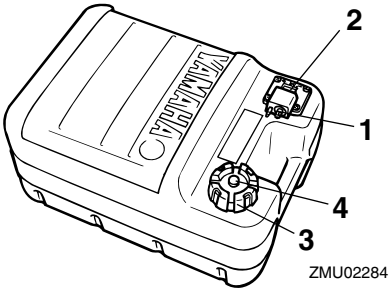
ヤマハ船外機は、専用燃料タンクが用意され

ています。

JWM00020

⚠警　告

- **保管または係留時には、燃料タンクを空にして船から下ろしておいてください。**
- **使用後はエアベントスクリュを閉じてください。**
- **燃料を入れたまま陸上運搬しないでください。**



ZMU02284

1. 燃料ホースコネクタ
2. 燃料計
3. 燃料タンクキャップ
4. エアベントスクリュ

JMU25830

燃料ホースコネクタ

燃料ホースをつないだり、外したりするためのものです。

JMU25841

燃料計

燃料タンクキャップ、または燃料ホースコネクタに装備されています。燃料タンク内のおよその燃料残量を示します。

JMU25850

燃料タンクキャップ

燃料タンクの給油口のふたです。反時計方向に回すと緩みます。

JMU25860

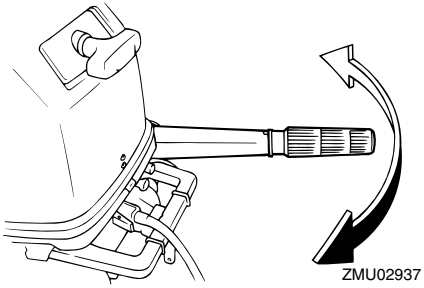
エアベントスクリュ

燃料タンクキャップに付いています。反時計方向に回すと緩み、燃料タンク内の圧力が大気開放されます。

JMU25911

ティラハンドル

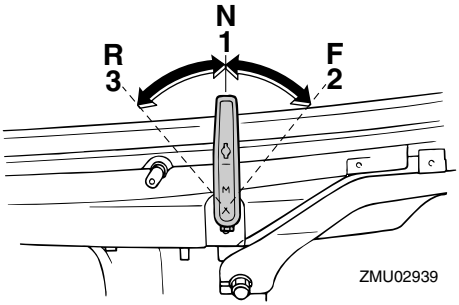
舵取り操作は、ティラハンドルを左右に動かして行ないます。


ZMU02937

JMU25922

ギヤシフトレバー

前方（船首側）へ倒すと前進し、後方（船尾側）へ倒すと後進します。



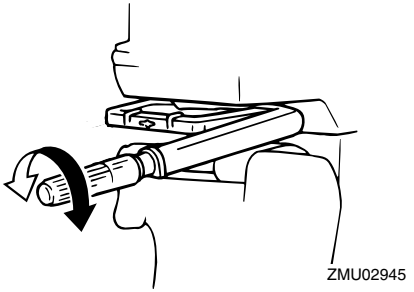
ZMU02939

1. ニュートラル　“**N**”
2. 前進　“**F**”
3. 後進　“**R**”

JMU25941

スロットルコントロールグリップ

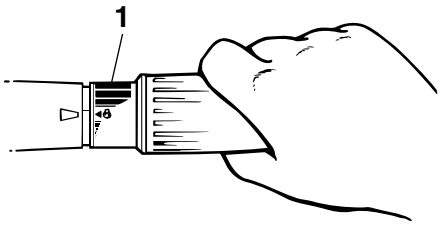
ティラハンドルの先端にあります。反時計方向に回せば加速し、時計方向に回せば減速します。


ZMU02945

JMU25961

スロットルインジケータ

スロットル開度の目安を表示します。



ZMU02938

1. スロットルインジケータ

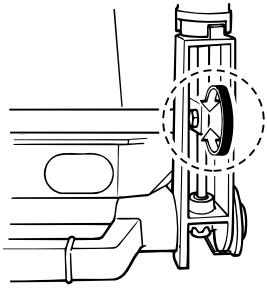
JMU25973

スロットルフリクションアジャスタ

スロットルコントロールグリップ／リモコンレバーの動きの重さを調整するノブ／スクリュがティラハンドル／リモートコントロールボックスに装備されています。操船者の好みに合わせて、調整ができます。

重さ（抵抗）を増やすには、時計方向に回します。**警告！ 調整スクリュ、または調整ノブを、締めすぎないようにしてください。リモコンレバー、またはスロットルコントロールグリップの動きが重すぎると、操船に支障をきたし事故につながる恐れがあります。**[JWM00032]

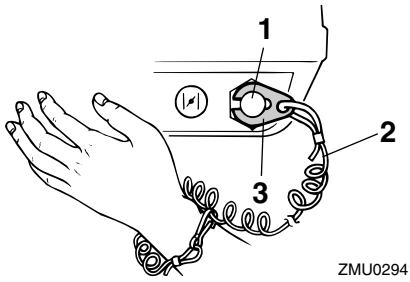
減らすには、反時計方向に回します。


ZMU02940

JMU25993

緊急エンジン停止スイッチ

航走中に操船者が落水等で操船不能に陥ったとき、カールコードが伸びてロックプレートが外れ、エンジンを急停止させ船の暴走を防ぐ仕組みになっています。カールコードは確実に操船者の衣服または手、足に取り付けてください。**警告！操船中はカールコードを衣服の丈夫な場所や手、足に確実に付けてください。衣服の緩みそうな場所にはカールコードを付けないでください。また、操船に支障をきたすような場所への取り付けは行なわないでください。航走中はカールコードが身体や周辺の機器等に引っ掛かり不意にロックプレートが外れないようにしてください。操船に支障をきたすばかりでなく、ロックプレートが外れることにより急減速され同乗者や荷物等が前方へ投げ出される恐れがあります。**[JWM00122]



ZMU02941

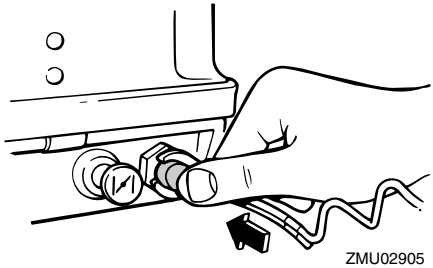
1. 緊急エンジン停止スイッチ
2. カールコード

3. ロックプレート

JMU26001

エンジン停止ボタン

赤いエンジン停止ボタンを押すことにより、エンジンを停止することが出来ます。

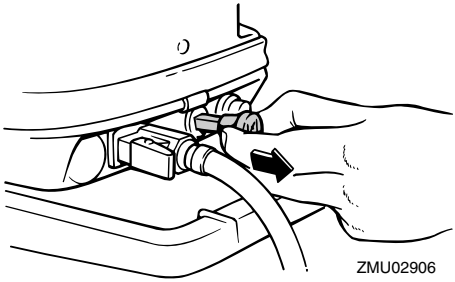


ZMU02905

JMU26011

チョークノブ（プルタイプ）

ノブを引くことにより､冷えているエンジンの始動に必要な濃い混合気が供給されます。

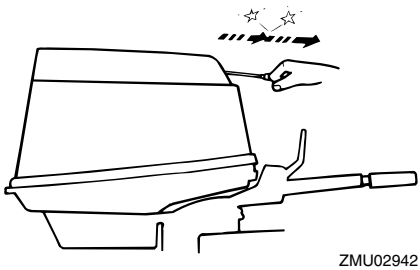


ZMU02906

JMU26070

手動始動ハンドル

手動でエンジンをクランキングさせ始動するときに使います。

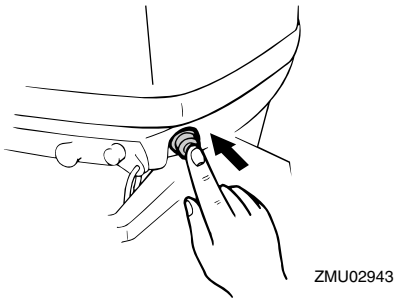


ZMU02942

JMU26080

エンジン始動ボタン

黒いボタンを押している間､スタータモータが回りエンジンを始動させます。

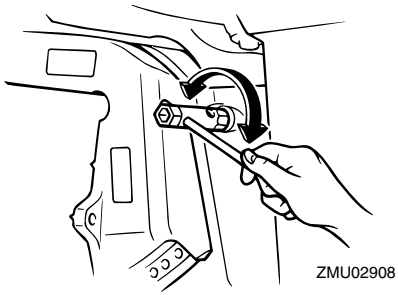


ZMU02943

JMU26122

ステアリングフリクションアジャスタ

ステアリングの動きの抵抗を調整するノブ/スクリュがスイベルブラケットに付いています｡操船者の好みに合わせて調整が出来ます。



ZMU02908

重さ（抵抗）を増やすには、時計方向に回し

ます。減らすには、反時計方向に回します。

JWM00040

⚠警　告

調整レバーまたは調整スクリュを締めすぎないようにしてください。ステアリング操作の抵抗が大きすぎると、操船に支障をきたし事故につながる恐れがあります。

JMU26253

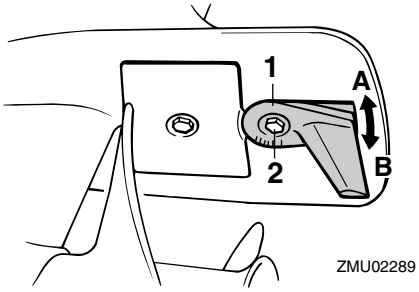
トリムタブ

JWM00840

⚠警　告

トリムタブの調整が悪いと操船に支障をきたします。トリムタブを交換した場合等は、試走してステアリングの状態を確認してください。トリムタブの調整等をおこなった後は、ボルトを確実に締めてください。

航走中にステアリングが左、または右にとられる場合に、その調整をするためのものです。
ステアリングが左舷側に取られる場合、トリムタブフィンを左舷側へ回す“A”。
右舷側に取られる場合、右舷側へ回す“B”。



1. トリムタブ
2. ボルト

要　点

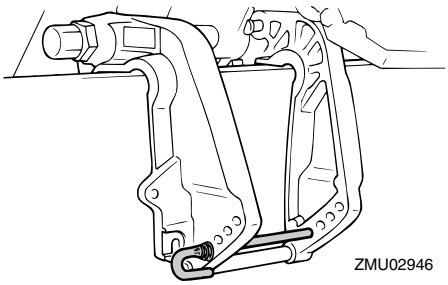
トリムタブは、使用頻度の多い航走スピードに合わせて調整してください。航走スピードやトリム角度が変われば、トリムタブの効果も変化します。

規定トルク；
8.0 Nm (0.8 kgf-m)

JMU26261

チルトピン

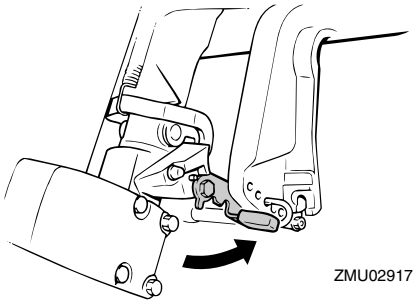
チルトピンの位置を変えることで、船外機をいっぱいまで下げた位置が決まります。



JMU26270

浅瀬航走レバー

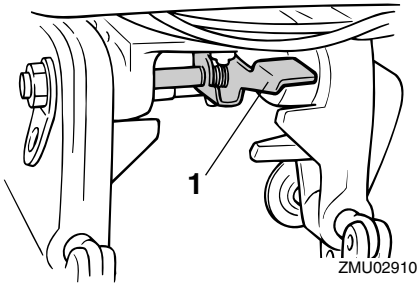
浅瀬を航走する場合、浅瀬航走レバーを使って船外機を少しチルトアップした状態でロワケースが水底に接触しないようにして浅瀬を航走するときに使用します。



JMU30530

チルトロック機構

チルトロック機構は、後進時にプロペラのはね上がりを防止するためのものです。



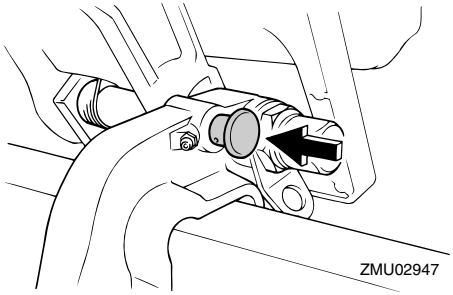
1. チルトロックレバー

チルトロックレバーがロックの位置ではロック状態、解除の位置では解除となります。

JMU26321

チルトサポートノブ

船外機をいっぱいまでチルトアップした状態を保つときに、チルトサポートノブを押し込んで保持します。



JCM00660

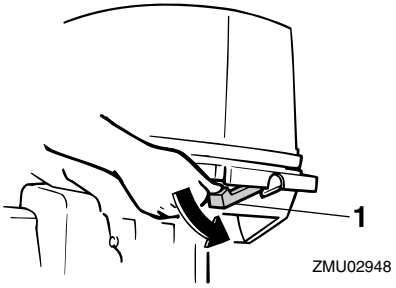
注　意

ボートを牽引しているときは、チルトサポートレバー／ノブを使用しないでください。揺られてレバーが外れ、船外機が勢いよく降下してくることがあります。船外機を通常の航走状態と同じ姿勢で運搬できないときは、更なる保持道具を使ってチルトアップした状態で船外機を確実に保持できるようにしてください。

JMU26372

トップカウル脱着レバー（回転式）

トップカウルを外すときは、前面／後面のロックレバーを回してロックを解除し、トップカウルの後部から持ち上げて外します。取り付けは逆の手順で行ないます。その時に、ゴムシール部が正しくはまっていること、およびロックが確実にされていることを確認してください。



1. トップカウル脱着レバー

JMU26902

船外機の取り付け

要　点

船外機と船体の組み合わせは多種多様なため、それぞれの仕様によって取り付け方法は必ずしも同一ではありません。ここでの説明は一般的な参考としてください。

JWM01590

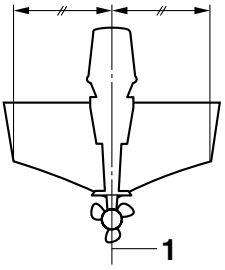
⚠警　告

- **船体の最大搭載馬力を越える船外機を搭載すると、ボートの安定性を大きく損ないます。ボートの最大搭載馬力より大きい船外機を取り付けないでください。ボートの最大搭載馬力が不明は場合は、ボートメーカーにお問い合わせください。**
- **船外機が正しく取り付けられていない場合、操船がしにくくなったり、制御不能や火災など危険な状況を引き起こしかねません。最初に船外機を取り付けて以降、船外機をはずすことのない場合は、ヤマハ販売店にご相談ください。**

JMU33470

船外機の取り付け

船外機の取り付けに際しては、操船に支障をきたさないよう、ボートの安定性が良いことを確かめます。ボートの安定性を欠くと操船に支障をきたす恐れがあります。船外機の取り付けは、ボートトランサムの中央（船体中心）上に船外機を取り付けます。



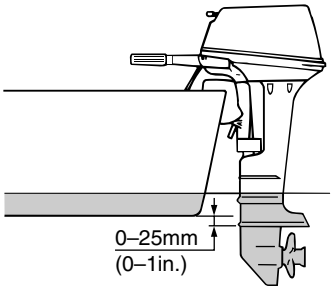
ZMU01760

1. センターライン（キールライン）

JMU26921

取り付け高さ

効率のよい航走をするためには、船外機と船体の水の抵抗を出来る限り減らす必要があります。船外機の取り付け高さは水の抵抗に大きく影響を与えます。取り付け高さが高すぎる場合は、航走中にキャビテーションをおこし推進力が低下します。同時にエンジン回転数が異常に高くなりオーバーヒート等の原因となる恐れがあります。取り付け高さが低すぎる場合は、水の抵抗が増え推進効率が低下します。一般的には船外機キャビテーションプレートの位置が、船底（キール）から25mm下方の間に収まるように取り付けます。



ZMU02011

JCM01630

注　意

- **水上で点検する際、静止状態で最大負荷時のボートの浮力をチェックしてください。エキゾーストハウジングの静水位が十分に低く、他の船舶が走行していないときに波のために水位が上がっても、パワーヘッドへの浸水がないか確かめてください。**
- **エンジンの高さが不適当であるか、水流に対する障害（ボートの設計や状態、あるいはトランサムラダーや水深測定器などの付属物）が存在すると、ボートが航行している間、水しぶきが発生することがあります。水しぶきがある状態でエンジンを連続運転すると、カウリングのインテークグリルから船外機内に水が入り、エンジンに深**

刻な損傷を与える恐れがあります。水しぶきの原因を解消し航行してください。

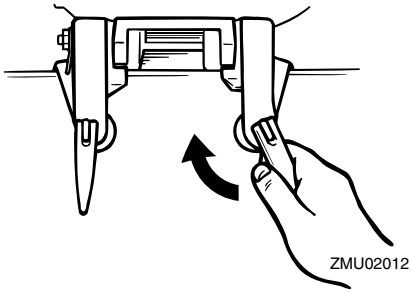
要　点

- 船外機と船体仕様の組み合わせによっては、取り付け高さは一律ではありません。試走して最良の取り付け高さを決めてください。
- トリム角度については32ページを参照ください。

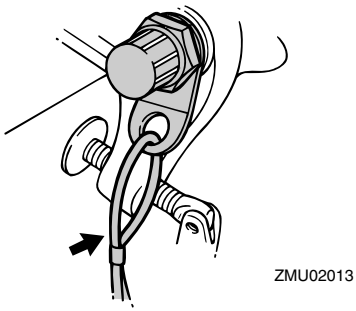
JMU26971

船外機の取り付け

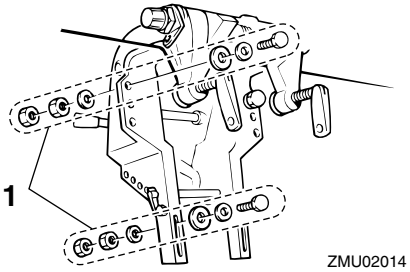
1. 船外機をボートトランサムの中央に持ってゆきます。クランプスクリュを確実に締め込みます。運転中に振動でクランプスクリュが緩まないように時々、締まり具合を点検します。**警告！クランプスクリュが緩むと、船外機がボートトランサム上を移動したり、脱落したりします。その結果、操船に支障をきたし事故の原因となる恐れがあります。クランプスクリュは、確実に締め付けてください。**[JWM00641]


ZMU02012

2. 船外機が脱落したときのためにロープ等を準備し、一方の端をエンジン側のロープアタッチメントに結び、他方を船体の丈夫な場所に結びます。そうすることによって何らかの原因で船外機がボートトランサムから脱落した場合、回収が可能です。


ZMU02013

3. 専用取り付け部品（ボルト等）の同梱されている機種は、ヤマハ取扱店にて専用取り付け部品を使ってボートトランサムに固定されることをお奨めいたします。**警告！専用取り付け部品以外のご使用は、おやめください。**[JWM00651]



ZMU02014

1. ボルト

JMU36380

最初にエンジンを始動する時

JMU30174

慣らし運転

新しいエンジンは、摺動部品の表面のなじみを出すために、慣らし運転の期間が必要です。慣らし運転を正しく行なうことにより初期性能をいかんなく発揮し、エンジンの構成部品の寿命も延びます。***注意：*慣らし運転を怠ると、構成部品の寿命が減るばかりでなくエンジンに損傷を与える恐れがあります。**

[JCM00801]

JMU27050

慣らし運転中の混合比（25:1）

	25:1			
	1 L (0.26 US gal, 0.22 Imp gal)	12 L (3.2 US gal, 2.6 Imp gal)	14 L (3.7 US gal, 3.1 Imp gal)	24 L (6.3 US gal, 5.3 Imp gal)
	0.04 L (0.04 US qt, 0.04 Imp qt)	0.48 L (0.51 US qt, 0.42 Imp qt)	0.56 L (0.59 US qt, 0.49 Imp qt)	0.96 L (1.01 US qt, 0.84 Imp qt)

ZMU02393

1. : ガソリン
2. : エンジンオイル

JCM00150

注　意

ガソリンとオイルはよくかき混ぜてください。エンジンに損害をあたえる恐れがあります。

JMU27074

慣らし運転の手順（混合仕様）

航走しながら負荷をかけ、10 時間行ないます。

1. 最初の 10 分間
   最低速回転で使ってください。
2. 次の 50 分間
   スロットルコントロールグリップ開度を約半分で使ってください。軽量な船の場合はエンジン回転が急激に上昇することがあります。そのときは、ただちにスロットルコントロールグリップを戻してエンジン回転を下げて使ってください。
3. 次の 2 時間
   スロットルコントロールグリップ開度を 4 分の 3 付近で使ってください。10 分に 1 分間の割合で全開航走を繰り返してください。
4. 残りの 7 時間
   好みのエンジン回転数で航走してください。ただし、全開域での航走は、連続 5 分間を超えない範囲としてください。
5. 10 時間以降
   通常にご使用できます。
   ガソリンとオイルの混合比は標準に戻してください。混合比は、24ページを参照ください。

JMU36400

ボートをよく知ろう

ボートにより扱い方は異なります。ボートを異なる条件、トリム角度で操縦することを練習している間は、注意して運転してください。32 ページを参照ください。

JMU36412

始動前点検

JWM01920

⚠警　告

始動前点検中に異常が見つかったときには、修理や整備を済ませてから使用してください。事故につながる恐れがあります。

JCM00120

注　意

冷却水を供給せずにエンジンを運転しないでください。オーバヒートしてエンジンが損傷します。

JMU37141

燃料量

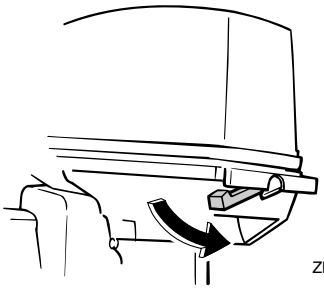
航行に必要な燃料を十分積んでいることを点検してください。燃料消費の良い目安は、三分の一で目的地に達し、帰路用に三分の一を使用し、残る三分の一は非常用予備としておくことです。トレーラまたは水上で水平に

保持し燃料量を点検してください。燃料の補給については、24 ページを参照してください。

JMU36570

トップカウリングの取り外し

船外機からトップカウルを取り外して以下の点検をおこなってください。トップカウルを取り外すには、ロックレバーのロックを解除しカウルを持上げます。



ZMU06084

JMU36440

燃料系統

JWM00060

⚠警　告

ガソリンは、高い引火性と爆発性があります。タバコ等の火気や他の火種になるようなものを近づけないでください。

JWM00910

⚠警　告

- **燃料漏れは火災や爆発の原因となりますので、常に点検をしてください。**
- **燃料漏れが見つかった場合は、直ちにヤマハ取扱店で修理を行ってください。**

JMU36450

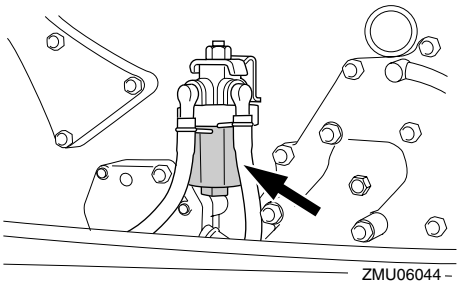
燃料漏れの点検

- トップカウルの内部やボート内の燃料漏れを点検してください。
- 燃料ホース接続部からの燃料洩れを点検してください。
- 燃料ホースを点検して、ひび割れ、膨れ、その他の損傷の有無を点検してください。

JMU37320

燃料フィルタの点検

燃料フィルタが清潔で水が溜まっていないことを点検します。燃料中に水が溜まっている場合、または破片等が見つかった場合は、ヤマハ取扱店に燃料タンクの点検と清掃を依頼してください。



ZMU06044

JMU36890

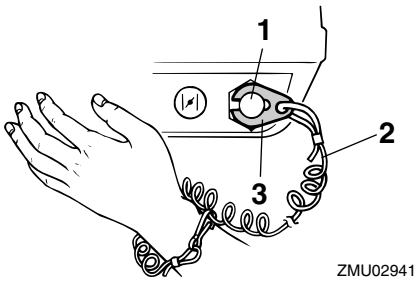
可動部分の点検

- ティラーハンドルを左右いっぱい動かして、スムーズに動くことを確認してください。
- スロットルグリップを全閉から全開に回し、動きがスムーズであることを確認し、スロットルグリップが完全に全閉位置に戻ることを点検してください。
- トップカウリング内でスロットルケーブルとシフトケーブルの接続の緩みや損傷がないか点検してください。

JMU36481

カールコード

カールコードに切れ目、割れ目、疲労などの損傷がないか点検します。



ZMU02941

1. 緊急エンジン停止スイッチ
2. カールコード
3. ロックプレート

JMU27120

オイル

- 航行に必要なオイル量があることを確認してください。

JMU27140

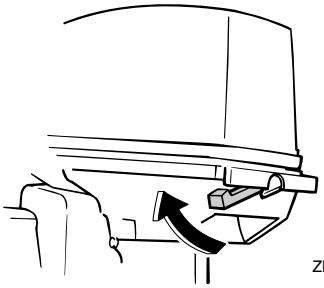
エンジン本体

- エンジン取り付けボルトの緩みや、取り付けの状態を点検してください。
- プロペラの損傷を点検してください。

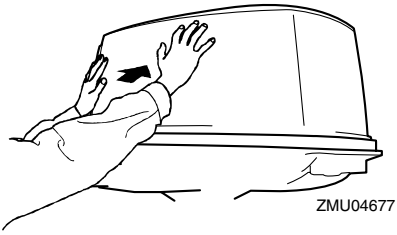
JMU36952

トップカウリングの取り付け

1. カウリングロックレバーのロックが解除されていることを確認してください。
2. ゴムシールがエンジンの全周に取り付けられていることを確認してください。
3. カウリングをゴムシールの上に置いてください。
4. ゴムシールがエンジンの全周に正しく取り付けられていることを確認してください。
5. 図のようにレバーを動かしてロックレバーをロックしてください。***注意：*トップカウルを正しく取り付けないとカウル下方からの水しぶきでエンジンが損傷し、また高速航行時にカウルが吹き飛ぶ恐れがあります。**[JCM01990]


ZMU06109

取付け後、トップカウリングを両手で押して確実に取り付けられているか点検してください。トップカウリングが緩んでいる場合は、ヤマハ販売店に修理を依頼してください。


ZMU04677

JMU36581

バッテリ

バッテリが良好な状態にあり、充電状態が良好かどうか点検します。バッテリターミナルに汚れがなく、接続部の緩み、絶縁力バーがかかっていることを点検します。バッテリターミナルは清潔で正しく接続してください。正しく接続されていないとバッテリはエンジンを始動できません。

接続が不完全な場合、ショートまたはアーク放電が発生し爆発を引起す可能性があります。

JMU27234

燃料とオイルの給油

JMU27246

燃料タンクへの給油

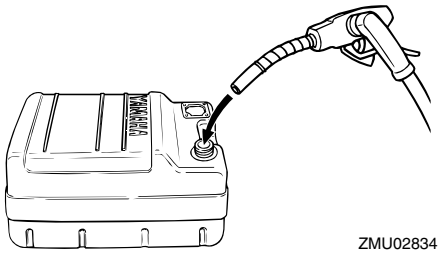
JWM01830

⚠警　告

- **ガソリンおよびそれが気化した蒸気は極めて引火性が高く、爆発する恐れがあります。火災や爆発の危険を減らすために、常にこの手順に従って給油してください。**
- **ガソリンは毒性があり、傷害または死亡に至る恐れがあります。取り扱いには十分に注意を払ってください。口でガソリンを吸い上げることは決してしないでください。万一、ガソリンを飲み込んだり、または多量の揮発蒸気を吸ったり、または目に入ったりした場合、ただちに医師の診断を受けてください。万一、ガソリンが皮膚にこぼれた場合、石鹸と水で洗ってください。衣類に付着した場合は、着替えてください。**

1. エンジンを止めます。
2. 燃料タンクをボートから下ろします。
3. 換気の良い戸外で確実に係留、またはトレーラ上に搭載した状態にあることを確認してください。
4. タバコを吸わないでください。また、スパーク (火花)、火炎、静電気その他の発火源から離れてください。
5. 携帯用のガソリン容器を使用して燃料の貯蔵と給油をおこなう場合は、認可されたガソリン容器のみを使用してください。
6. 給油時は、静電気の火花を防ぐために、燃料パイプのノズル部分を給油口またはファンネル（漏斗）部に軽く触れさせてください。
7. 燃料タンクに燃料を給油します。燃料を入れすぎないようにしてください。入れすぎた場合、温度の上昇によって、燃料が膨張し溢れることがあります。

燃料タンクの容量； 24 L



ZMU02834

8. 燃料タンクキャップを確実に閉めます。
9. こぼれたガソリンはただちに乾いたウエスで拭き取ってください。ガソリンを拭いたウエスは、正しい方法で廃棄してください。

JMU27395

ガソリンとエンジンオイルの混合（50:1）

	ガソリン：エンジンオイルの混合比
慣らし運転期間	25:1
慣らし運転後	50:1

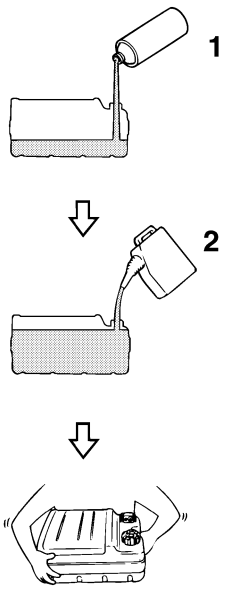
	50:1			
	1 L (0.26 US gal, 0.22 Imp gal)	12 L (3.2 US gal, 2.6 Imp gal)	14 L (3.7 US gal, 3.1 Imp gal)	24 L (6.3 US gal, 5.3 Imp gal)
	0.02 L (0.02 US qt, 0.02 Imp qt)	0.24 L (0.25 US qt, 0.21 Imp qt)	0.28 L (0.3 US qt, 0.25 Imp qt)	0.48 L (0.51 US qt, 0.42 Imp qt)

ZMU04682

1. ⛽: ガソリン
2. 🛢: エンジンオイル

専用燃料タンクが装備されている場合

1. エンジンオイルとガソリンを所定の割合で燃料タンクに注ぎます。



ZMU02394

1. エンジンオイル
2. ガソリン

2. 燃料タンクキャップをしっかりと締めます。
3. 燃料タンクを揺り動かしてエンジンオイルとガソリンをよく混合します。
4. エンジンオイルとガソリンが良く混ざっていることを確認します。

一体型燃料タンクが装備されている場合

1. 別の燃料タンクを用意し、エンジンオイルとガソリンを所定の割合で注ぎます。
2. 燃料タンクキャップをしっかりと締めます。
3. 燃料タンクを揺り動かしてエンジンオイルとガソリンをよく混合します。
4. エンジンオイルとガソリンが良く混ざっていることを確認します。
5. よく混ざったエンジンオイルとガソリンを一体型燃料タンクに給油します。

JCM00811

注　意

- **推奨外のエンジンオイルのご使用は避けてください。**
- **燃料はエンジンオイルがよく混ざった状態のものをご使用ください。**
- **エンジンオイルの混合が不適切なものは、次のような不具合をおこす恐れがあります。**
- **混合比率が低い場合は、オイル不足によるエンジンの焼き付きなどの原因となる恐れがあります。**
- **混合比率が高い場合は、オイル過剰によるスパークプラグの汚損、排気白煙の多量発生やエンジン内部へのカーボン堆積等の原因となる恐れがあります。**

要　点

ボートに備え付けられている燃料タンクを利用する場合は、エンジンオイルとガソリンを交互に少しずつ追加していきます。

JMU27451

エンジン操作

JMU27464

燃料供給（燃料タンク別体仕様）

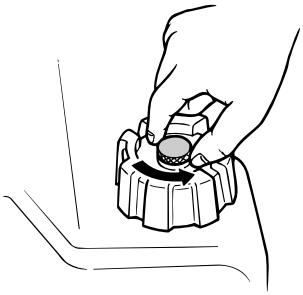
JWM00420

⚠警　告

- **エンジン始動前にはボートを確実に係留し、付近に障害物や遊泳者等が居ないことを確認してください。**
- **エアベントスクリュを緩めるときは、燃料がにじみ出たり燃料の揮発蒸気が洩れることがあります。火災や爆発の原因となりますので、煙草等の火気は近づけないでください。**
- **排気ガスは一酸化炭素を含み中毒をおこす恐れがあります。ボートハウスなどの閉め切った場所ではエンジンを始動させないでください。**

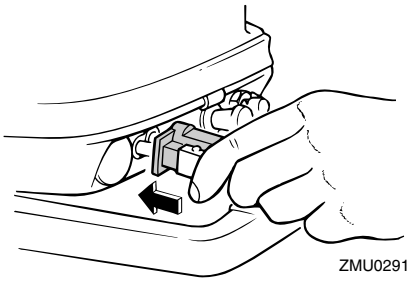
1. 燃料タンクにエアベントスクリュが装備されているものは、2 ～ 3 回転緩め

ます。

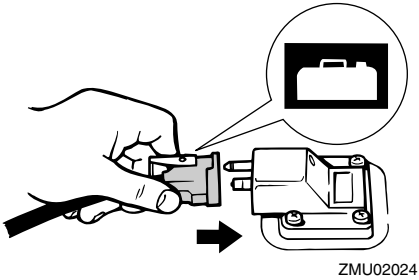


ZMU02295

2. 燃料ホースコネクタが装備されている機種は、燃料ホースを確実に接続します。艇体に燃料コックが装備されているものはコックを開けます。

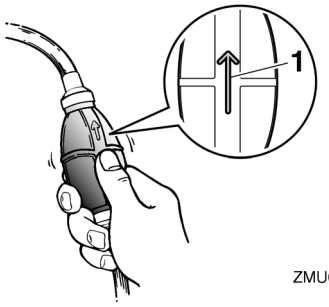


ZMU02911



ZMU02024

3. プライミングポンプの矢印を上に向け、固くなるまで握ったり離したりを繰り返します。操作中は燃料タンクを水平にしてください。さもなければ、燃料が適切に供給出来ません。



ZMU02025

1. 矢印

JMU27492

エンジン始動

JWM01600

⚠警　告

エンジンを始動する前に、ボートがしっかり係留されていること、各作動部分に引っ掛かりや、余分な遊びが無くスムーズに機能することを確認してください。付近に遊泳者がいないことを確かめてください。

JMU27508

手動始動の手順（ティラハンドル仕様）

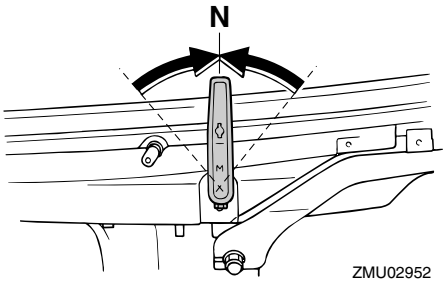
JWM01840

⚠警　告

- **カールコードを付けないと操船者が船外に投げ出されたときにボートが暴走する恐れがあります。操船中はカールコードを衣服の丈夫な場所や手、足に確実に付けてください。衣服の緩みそうな場所にはカールコードを付けないでください。また、操船に支障をきたすような場所への取り付けは行なわないでください。**
- **航走中はカールコードが身体や周辺の機器等に引っ掛かり不意にロックプレートが外れないようにしてください。操船に支障をきたすばかりでなく、ロックプレートが外れることにより急減速され同乗者や荷物等が前方へ投げ出される恐れがあります。**

1. ギヤシフトレバーを中立（ニュートラ

ル）にします。

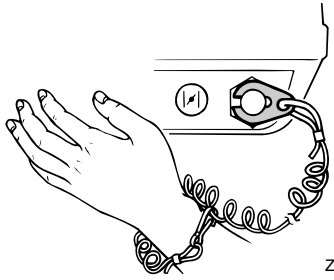


ZMU02952

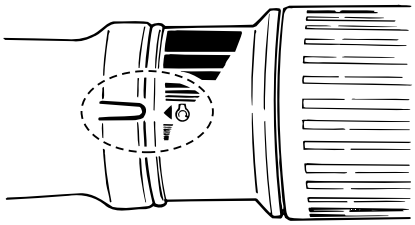
要　点

始動安全装置が作動するため、中立（ニュートラル）でなければエンジンの始動は出来ません。

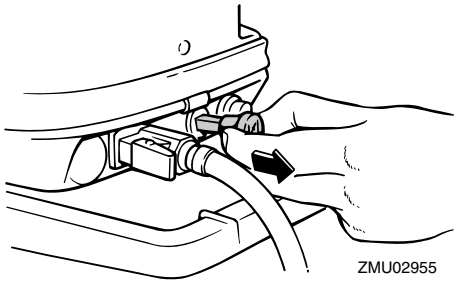
2. カールコードを衣服の丈夫な場所や手、足に確実に着け、ロックプレートを緊急エンジン停止スイッチに差し込みます。


ZMU02953

3. スロットルコントロールグリップを始動位置“**START**”にします。


ZMU02954

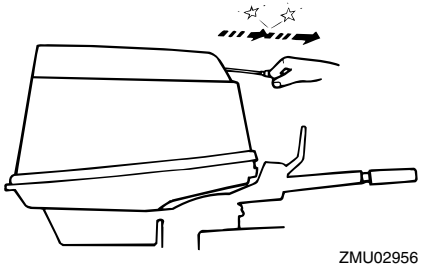
4. エンジンが冷えているときは、チョークノブをいっぱい引く／回します。エンジン始動後は、徐々にチョークノブをもとの位置まで戻します。


ZMU02955

要　点

- 負荷運転を行なった直後等の再始動時には、チョークノブを引く必要はありません。
- チョークノブを引いたままの状態にしておくと、エンジンが停止してしまいます。

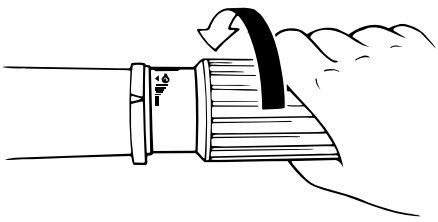
5. 抵抗を感じるまで、手動始動ハンドルをゆっくりと引きます。そこから、真後ろに一気に強く引いてエンジンを始動させます。


ZMU02956

要　点

1回で始動しない場合は、同じ操作を繰り返します。4～5 回行なっても始動しない場合は、52 ページを参照ください。又、エンジンが暖まった状態での始動が困難な場合は、スロットルを少し開いて行ってくださ

い。
6. エンジン始動後は、手動始動ハンドルをゆっくりと元の場所に戻します。
7. スロットルコントロールグリップを全閉の位置に戻します。



ZMU02030

JMU27565

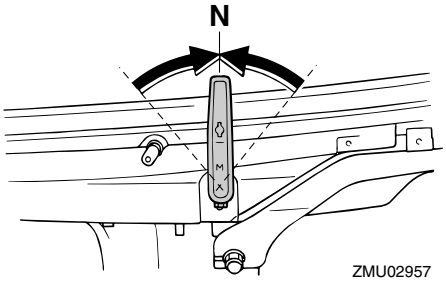
電動始動の手順

JWM01840

⚠警　告

- **カールコードを付けないと操船者が船外に投げ出されたときにボートが暴走する恐れがあります。操船中はカールコードを衣服の丈夫な場所や手、足に確実に付けてください。衣服の緩みそうな場所にはカールコードを付けないでください。また、操船に支障をきたすような場所への取り付けは行なわないでください。**
- **航走中はカールコードが身体や周辺の機器等に引っ掛かり不意にロックプレートが外れないようにしてください。操船に支障をきたすばかりでなく、ロックプレートが外れることにより急減速され同乗者や荷物等が前方へ投げ出される恐れがあります。**

1. ギヤシフトレバーを中立（ニュートラル）にします。

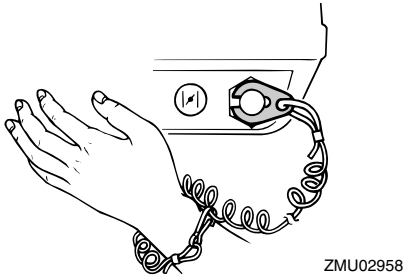


ZMU02957

要　点

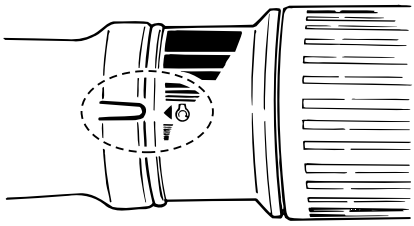
始動安全装置が作動するため、中立（ニュートラル）でなければエンジンの始動は出来ません。

2. カールコードを衣服の丈夫な場所や手、足に確実に着け、ロックプレートを緊急エンジン停止スイッチに差し込みます。



ZMU02958

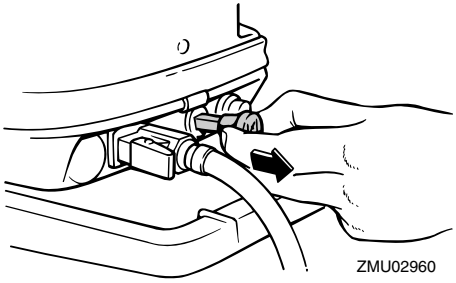
3. スロットルコントロールグリップを始動位置“**START**”にします。



ZMU02959

4. エンジンが冷えているときは、チョーク

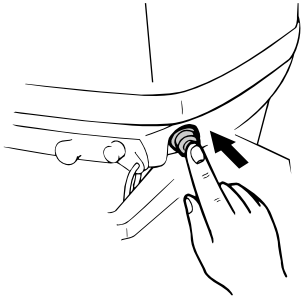
ノブをいっぱいに引きます。


ZMU02960

要　点

- 負荷運転を行なった直後等の再始動時には、チョークノブを引く必要はありません。
- チョークノブを引いたままの状態にしておくと、エンジンが停止してしまいます。

5. エンジン始動ボタンを押してエンジンを始動させます。

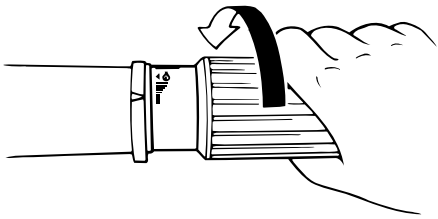

ZMU02961

6. エンジン始動後は、ただちにボタンを離します。
7. エンジン始動後は、スロットルコントロールグリップを全閉の位置まで戻します。

JCM00160

注　意

- **スタータモータは、連続して5秒以上回さないでください。スタータモータを5秒以上連続して回すと、バッテリが上がりエンジンが始動できなくなる恐れがあります。5秒以内でエンジンが始動しない時は、10秒待ってからもう一度行なってください。**
- **エンジン運転中は、エンジン始動ボタンを押さないでください。**


ZMU02962

要　点

- エンジンが冷えているときは、暖機運転を行ないます。暖機運転については、30ページを参照ください。
- 1回で始動しない場合は、同じ操作を繰り返します。4～5回行なっても始動しない場合は、52ページを参照ください。又、エンジンが暖まった状態での始動が困難な場合は、スロットルを少し開いて行ってください。

JMU36510

エンジン始動後の点検

JMU36520

冷却水

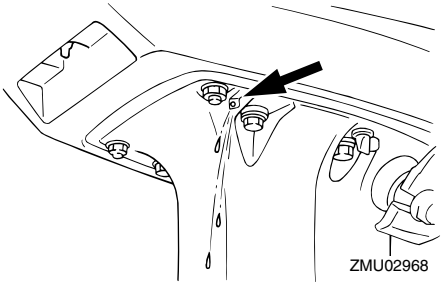
冷却水点検孔から勢いよく水が出ていることを点検してください。水が常時流れているということは、ウォータポンプが冷却経路を通じて水を送っていることを意味します。冷却経路が凍結している場合は、冷却水点検孔から水が流れ出るまでに少し時間がかかることがあります。

JCM01810

注　意

エンジンが回転中にもかかわらず冷却水点検孔から水が全く出ない場合は、オーバーヒートや重大な損傷が発生する恐れがあります。エンジンを停止して、ロワケース上の

冷却水取入口の詰まりを点検してください。問題点が特定できず解決できない場合はヤマハ取扱店にご相談ください。



排気カバー、シリンダヘッドおよびボディシリンダ間の各結合部からの水漏れを点検してください。

JMU27670

暖機運転

JMU27683

チョーク始動仕様

エンジン始動後は、3 分間以上アイドリング（無負荷最低速運転）状態で運転してエンジンを暖めてください。（暖機運転を怠るとエンジンの寿命が短くなることが考えられます。）エンジンが始動し、暖まってきたら、徐々にチョークノブを元の位置まで戻します。

JMU36530

暖機運転後の点検

JMU36540

シフト操作

確実に係留し、スロットルを使用しない状態でシフトが前進、後進、中立（ニュートラル）にスムーズに変わることを点検してください。

JMU36970

ストップスイッチ

- エンジンストップボタンを押すとエンジンが停止することを点検してください。
- 緊急エンジン停止スイッチからロックプレートを取り外すとエンジンが停止することを点検してください。
- 緊急エンジン停止スイッチにロックプレートが取り付いていない状態では、エンジンが始動しないことを点検してください。

JMU34550

前進／後進

JWM00180

⚠警　告

前進、後進をする前には、附近に遊泳者や障害物等が無いことを確認してください。

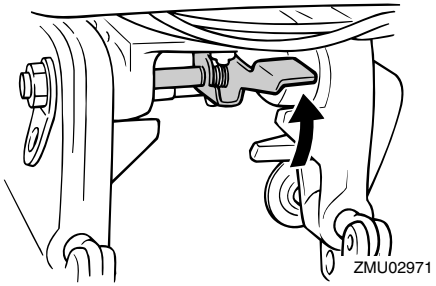
JCM01610

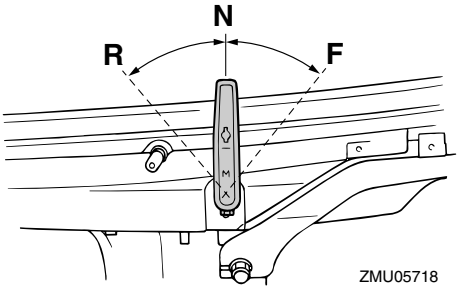
注　意

- **前進、後進の操作を行なう前に、暖機運転を行なってください。エンジンが暖まるまでは、通常よりアイドリングスピードが高い場合があります。アイドリングスピードが高いときは、シフトを中立（ニュートラル）の位置まで戻せない場合があります。アイドリングスピードが高い場合は、エンジンを止め、シフトを中立（ニュートラル）にしてください。その後、エンジンを再始動して、暖機運転を行なってください。エンジン回転が下がらないまま、急激なシフト操作を行なうとギヤ等に損傷を与える恐れがあります。**
- **前進、後進のシフト操作を頻繁に行なう場合は、早めにオイル交換を行なってください。シフト操作を頻繁に行なうと、部品の消耗や劣化が通常よりも著しく進行することがあります。**

前進または後進への操作

1. すみやかにギヤシフトレバーを前進側（船首側）または後進側（船尾側）に倒します。チルトロックレバーが装備されている場合、チルトロックレバーをロックの位置／チルトダウンの位置にします。

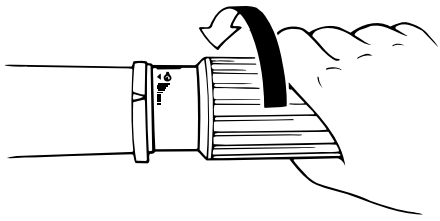

ZMU02971



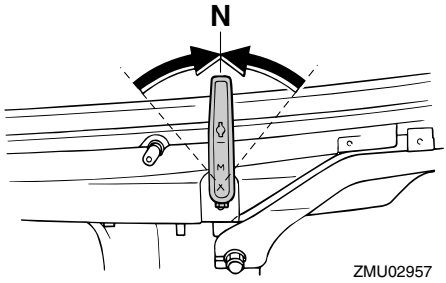
ZMU05718

中立（ニュートラル）への操作

1. アイドリングスピードになるように、スロットルを閉じます。


ZMU02030

2. アイドリングスピードまで回転が落ちたら、すみやかにギヤシフトレバーを中立（ニュートラル）にします。



ZMU02957

JMU31742

停船

JWM01510

⚠警　告

- **船が制御不能に陥いったり、乗船者が船外へ投げ出されたり、ハンドルなどに身体を打ち付ける恐れがあるので、停船や減速のために後進操作を行なわないでください。重大な損傷の原因となる恐れがあります。また、シフト機構に損傷を与える原因となる恐れがあります。**
- **プレーニングスピードのときは、シフトを後進にしないでください。船の制御が出来なくなり、船への浸水が起こり、損傷を与える原因となる恐れがあります。**

船には、停船装置がありません。シフト中立（ニュートラル）操作後、エンジン回転数減少に伴う水の抵抗により停船します。停船距離は、総重量、水面の状態、風向によって異なります。

JMU27821

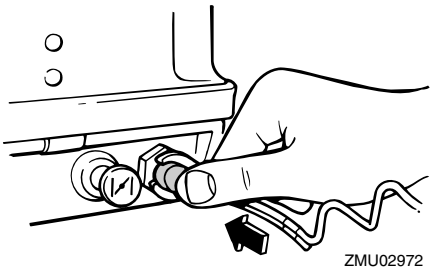
エンジン停止

数分間、アイドリング（無負荷最低速回転）でエンジンを冷やしてから行なってください。高いエンジン回転での航走後は、すぐにエンジンを停止しないでください。

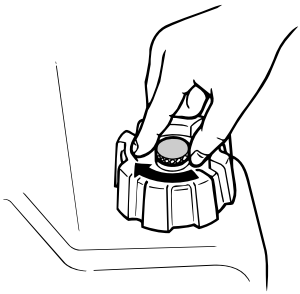
JMU27833

停止ボタン仕様

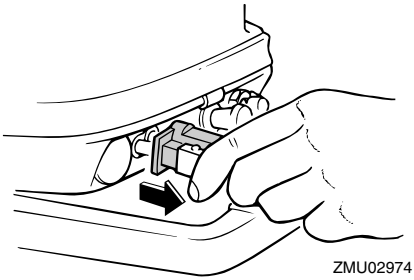
1. 赤いエンジン停止ボタンをエンジンが停止するまで押します。


ZMU02972

2. エンジン停止後はエアベントスクリュを閉め、燃料コック（装備されている場合）を閉めます。


ZMU02301

3. 専用燃料タンクを使った場合は、ホースコネクタを外します。


ZMU02974

要　点

カールコード（装備されている場合）を引っ張って緊急エンジン停止スイッチからロックプレートを引き抜いてもエンジンは停止します。

JMU27862

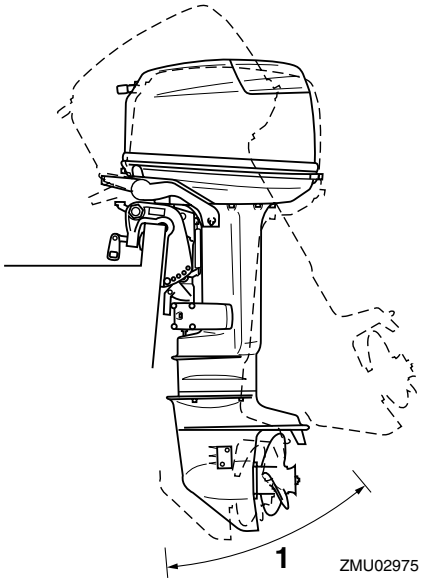
船外機トリム角度

JWM00740

⚠警　告

過度なトリム角度の調整は、ボートの安定性や操船に支障をきたし事故につながる恐れがあります。ボートの安定性や操船に異常を感じた場合は、ただちに航走スピードを落とすかトリム角度の再調整を行なってください。

船外機のトリム角度は、航走中のボートの船首の高さの位置決めに使います。トリム角度が適正であれば、最大限の性能が発揮され燃費も向上します。適正なトリム角度は、船体、エンジン、プロペラの組み合わせで決まります。また、適正なトリム角度は、ボートの負荷、海況、航走スピード等によって変わります。



ZMU02975

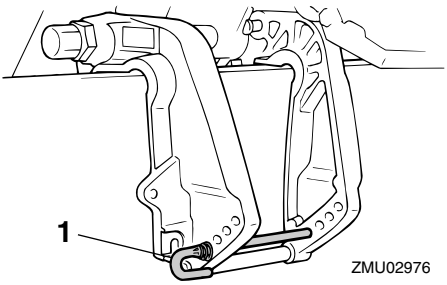
1. トリム範囲

JMU27872

トリム角度の調整（マニュアルチルト仕様）

船外機トリム角度の調整用の穴がブラケットに４または５ヵ所用意されています。

1. エンジンを止めます。
2. 船外機をチルトアップした状態でチルトピンを外します。



1. チルトピン

3. チルトピンを再び好みの位置に差し込みます。

船首を上げるときは、上方の位置にチルトピンを差し込みます。
船首を下げるときは、下方の位置にチルトピンを差し込みます。
トリム角度を変えて試走を行ない、ボートの種類や使用状況に合わせて最適な位置を選んでください。

JWM00400

⚠警　告

- **トリム角度を調整する前には、必ずエンジンを停止してください。**
- **チルトピンを外したり差し込んだりする場合は、手を挟まれないように注意してください。**
- **チルトピンの位置を変えて最初に操船するときは、十分注意をしてください。徐々にスピードを上げ、ボートの安定性を欠く兆候や操作系の問題が無いかを見てください。不適切なトリム角度は、操船に支障をきたします。**

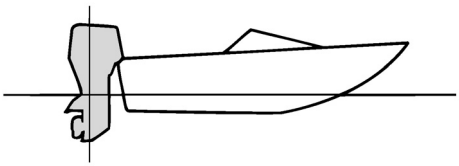
要　点

船外機のトリム角度は、チルトピンを１段ずらすことにより約４°変わります。

JMU27911

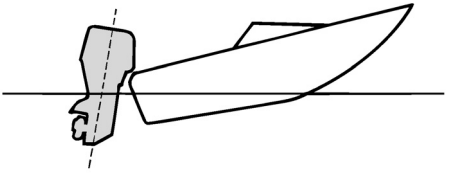
トリム角度の設定とボートの取り扱い

ボートが滑走しているときは、一般的に船首はキールラインが水面よりも3°～5°上がっている状態が安定性がよく効率もよくなります。船外機トリム角度を大きく取ったときは、ボートは左右どちらかにハンドルを取られる傾向を示す場合があります。そのときはステアリング操作で補ってください。またはトリムタブの調整で補うこともできます。



船首上がり

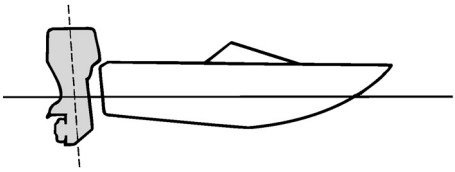
船外機のトリム角度を大きく取りすぎた場合は、航走中に船首が上がり過ぎます。この状態は船底への水の抵抗が増し、性能や燃費が低下します。更に過度のトリムアップは、プロペラがエアドローを引き起こし大きな性能低下を招きます。また、ボートが飛び跳ね乗員が船外へ投げ出される恐れもあります。



ZMU01785

船首下がり

船首が下がっているときは、停止状態からの発進加速が良くなります。高速航走での過度のトリムダウン（トリムイン）は、船首の抵抗が大きくなり、操船が困難となりボートの安定性を欠き危険を招く恐れがあります。



ZMU01786

要　点

ボートの種類によっては、船外機のトリム角度の調整を行なっても航走姿勢が殆ど変化しないこともあります。

JMU27934

チルトアップ／ダウン

係留保管や浅瀬での係留時には、電蝕（水中の微弱電気による金属の腐蝕）や海草類の付着によってプロペラやロワケースが損傷を受けないように船外機をチルトアップします。

JWM01130

⚠警　告

- **チルトアップ / ダウンの操作をするときは、付近に人が居ないこと確認してください。また、船外機に身体を挟まれないように注意してください。**
- **燃料漏れは火災を招く恐れがあります。長時間チルトアップする場合は燃料が漏れることがありますので、燃料ホースコネクタを外すか燃料コックを閉じてください。**

JCM00241

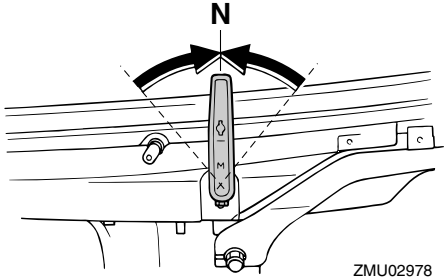
注　意

- **エンジンを停止してからチルトアップしてください。エンジン運転中にチルトアップした場合、オーバヒートによる損傷を受けます。**
- **ティラハンドル仕様の場合は、ハンドルを押さえつけてチルトアップしないでください。ティラハンドルを損傷させる恐れがあります。**

JMU32661

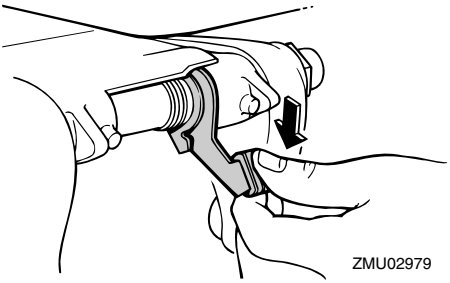
チルトアップ（マニュアルチルト仕様）

1. ギヤシフトレバーを中立（ニュートラル）の位置にします。フルピボット仕様で舵が 90 度以上きられているときでも、前進方向へ向けシフトを中立（ニュートラル）にします。

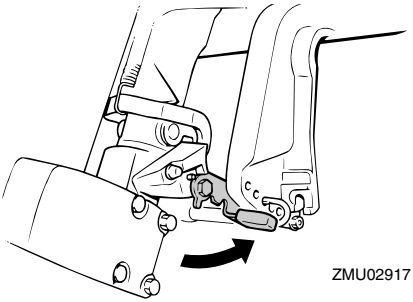


ZMU02978

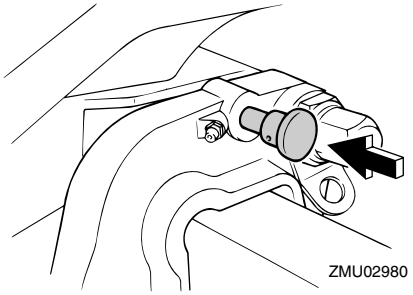
2. チルトロックレバーが装備されている場合、解除 / チルトアップの位置にします。


ZMU02979

3. 浅瀬航走レバーが装備されている場合、浅瀬航走レバーを引き上げます。


ZMU02917

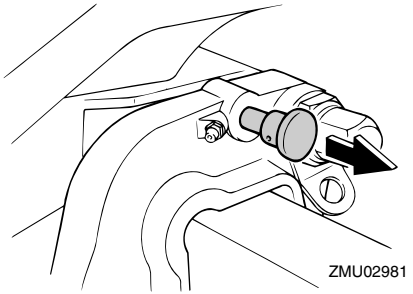
4. トップカウルの後部を持って、いっぱいまでチルトアップします。
5. チルトサポートノブを押し込むか、自動的にクランプブラケット内側の溝に入り船外機を保持します。***注意：*ボートを牽引するときは、チルトサポートレバー／ノブを使用しないでください。船外機が振動のためにゆるんでチルトサポートから抜け落ちる恐れがあります。船外機を通常の航走状態と同じ姿勢で運搬できないときは、更なる保持道具を使ってチルトアップした状態で船外機を確実に保持できるようにしてください。**[JCM01641]


ZMU02980

JMU28013

チルトダウン（マニュアルチルト仕様）

1. 少しチルトアップします。
2. チルトサポートノブ付きの場合、チルトサポートノブを引きだします。


ZMU02981

3. チルトダウンします。

JMU28061

浅瀬航走

JMU28073

浅瀬航走（マニュアルチルト仕様）

JWM01781

⚠警　告

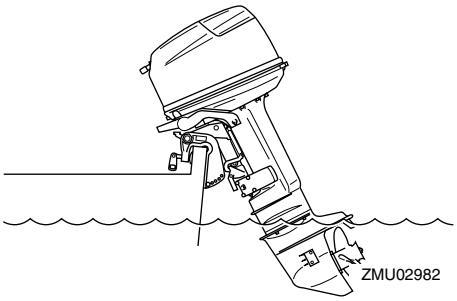
- **浅瀬航走中はチルトロック機構が作動しません。また水中の障害物等にロワケースが衝突した場合、水面上にはね上がり操船に支障をきたす恐れがあります。**
- **過大な後進出力を使用した場合は、水面上にプロペラがはね上がり大きな事故の原因となる恐れがありますので、十分に注意**

をしてください。

JCM00260

注　意

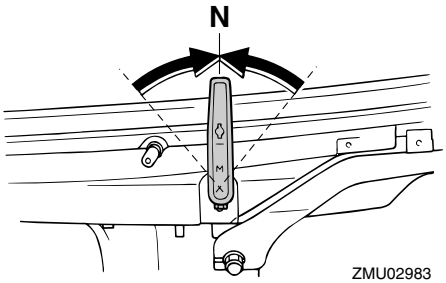
浅瀬航走中は冷却水取入口が水面上へ出るまでチルトアップしないでください。オーバヒートによる大きな損傷を受けることが考えられます。


ZMU02982

JMU32800

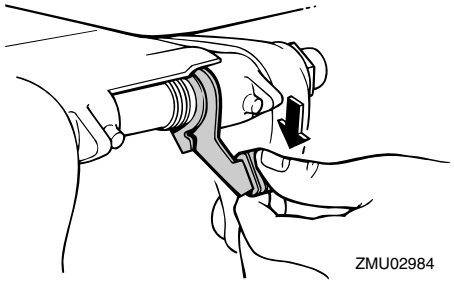
浅瀬航走セットの手順（マニュアルチルト）

1. ギヤシフトレバーを中立（ニュートラル）の位置にします。

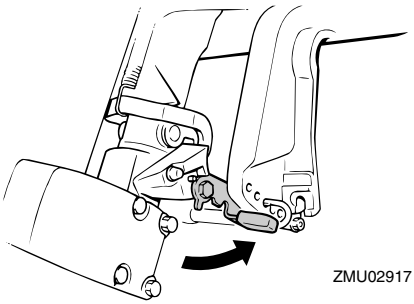


ZMU02983

2. チルトロックレバーを押し下げ、チルトロックを解除します。


ZMU02984

3. トップカウルの後部を持ち船外機を少しチルトアップしたまま、浅瀬航走レバーを引き上げます。浅瀬航走レバーで船外機を保持させます。この状態で浅瀬航走ができます。


ZMU02917

4. 元の状態に戻すときは、少しチルトアップしてから浅瀬航走レバーを元の位置に戻します。チルトロックレバーをロックの位置へ戻して、ゆっくりと最後までチルトダウンします。

JMU28194

他の航走状況

塩水域での航行

塩水域で航行後は、冷却経路を真水で勢いよく洗い流して、目詰まりが生じないようにしてください。船外機の外側も真水で洗い、可能ならばカウリングの下のパワーヘッドも水洗いしてください。

泥水や濁り水、酸性水域での航行

船外機を酸性水域や泥水、濁り水のような沈殿物の多い水域でご使用される場合は、別売

のクロームメッキウォータポンプキット(12ページ参照)の取り付けをお勧めいたします。このような水域を航行した後には、冷却経路を真水で勢いよく洗い流して、腐食を防止してください。船外機の外部も真水で洗ってください。

JMU28225

運搬と保管

JWM00692

⚠警　告

- **車やボートで燃料タンクを運搬するときは注意してください。**
- **燃料容器の最大容量まで燃料を入れないでください。ガソリンは暖まることによって膨張し、燃料容器が膨張します。燃料漏れや火災の原因になります。**

JWM01860

⚠警　告

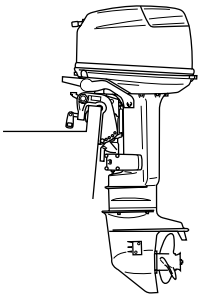
燃料漏れは火災の原因となります。船外機の運搬と保管する際は燃料コックを閉じて燃料漏れを防止します。チルトアップした船外機の下には絶対に入らないでください。偶発的原因で船外機が突然降下して、身体が挟まれる恐れがあり危険です。

JCM00660

注　意

ボートを牽引しているときは、チルトサポートレバー／ノブを使用しないでください。揺られてレバーが外れ、船外機が勢いよく降下してくることがあります。船外機を通常の航走状態と同じ姿勢で運搬できないときは、更なる保持道具を使ってチルトアップした状態で船外機を確実に保持できるようにしてください。

船外機の運搬は通常の航走状態と同じ姿勢で行なってください。このときに、路面から十分に間がとれない場合は、チルトアップして船外機を確実に保持できるような道具(トランサムバー等)を使用して運搬してください。詳しくは、ヤマハ取扱店へお問い合わせください。

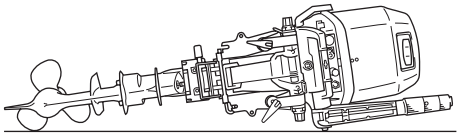


ZMU02986

JMU28235

クランプハンドル取り付け機種

船体から船外機を外して単体で運搬や保管を行なう場合は、船外機スタンドを使用するか、図のような状態を保ってください。



ZMU02987

要　点

船外機を横にして運搬する際は、外傷が出来ないようにタオルのようなものを下に敷いてください。

JMU30272

長期保管

船外機を長期にわたって保管する場合は、劣化損傷を抑えるためにヤマハ取扱店にて格納点検を受けられることをお奨めいたします。ご自身でやられる場合は、簡易的方法として次のようにしてください。

JCM01411

注　意

- **船外機内部の冷却水が完全に抜けきるまで、横に向けて置かないでください。冷却**

水が燃焼室へ逆流する恐れがあります。

- **保管は乾燥した換気の良い直射日光の当たらない場所で行なってください。**

JMU28303

保管手順

JMU28334

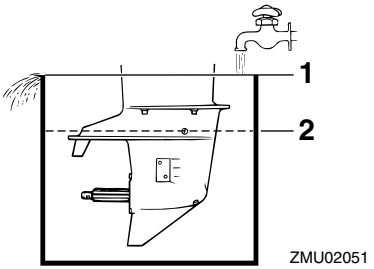
水槽を使った洗浄

JCM00300

注　意

冷却水を供給せずにエンジンを運転しないでください。ウォータポンプが壊れ、オーバヒートしてエンジンが損傷します。エンジン始動前には、冷却経路に水を供給してください。

1. 真水を使って船外機外部を洗ってください。***注意：*インテークグリルに水を噴きつけないでください。**[JCM01840] 詳細は 39 ページを参照ください。
2. 燃料ホースコネクタを外すか、燃料コックを閉じます。
3. トップカウルとサイレンサカバー、プロペラを外します。
4. 船外機を水槽にいれます。キャビテーションプレートが浸かるまで真水を入れます。***注意：*水位がキャビテーションプレート以下の場合は冷却水の供給が十分に出来ず、エンジンに損傷をきたします。**[JCM00291]



1. 水面
2. 最低の水位

5. 塩分、砂、ゴミなどによるエンジン冷却経路の目詰まりを防止するために洗浄が必要です。さらに防錆剤（マリンガード）を吹き付けることにより、錆による損傷を防ぐことができます。洗浄と吹き付けは同時に行ってください。**警告！エンジン運転中は電装部品に触れたり、外したりしないでください。エンジン運転中は、手、髪、衣服等を回転部品に巻き込まれないように近づけないでください。**[JWM00091]
6. シフトを中立（ニュートラル）にしてエンジンを始動させます。
7. エンジンを停止させる前に、キャブレタまたは、サイレンサカバーの吹き付け孔に素早く防錆剤（マリンガード）を吹き付けます。適切であれば、エンジンが停止します。
8. 水槽から船外機を取り出します。
9. サイレンサカバーまたは、吹き付け孔のキャップとトップカウルを取付けます。
10. 防錆剤（マリンガード）が使用できない場合、燃料系統内の燃料が無くなってエンジンが停止するまでアイドリング（無負荷最低速回転）で運転します。
11. 船外機から冷却水を完全に抜き、表面をふきあげます。
12. 防錆剤（マリンガード）が使用できない場合、スパークプラグを外します。小量のエンジンオイルをシリンダ内へ注入します。手動でフライホイールロータを 4 ～ 5 回転させオイルを行き渡らせます。スパークプラグを取り付けます。
13. 燃料タンクを空にします。

要　点

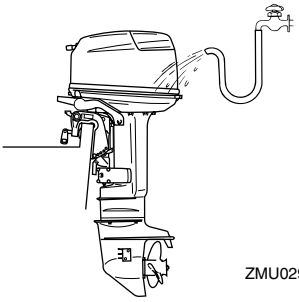
船外機の保管は、乾燥した風通しの良い場所で行なってください。直射日光の当たる場所には置かないでください。

JMU28450

船外機の清掃

ご使用後は真水で船外機の外部を洗ってく

ください。



ZMU02988

要　点

冷却経路の清掃は、38 ページを参照ください。

JMU28460

船外機外装の点検

船外機本体表面の傷、破損、塗装の剥がれ、変色（白化）等が無いかどうかを点検してください。必要に応じて、塗料を塗って補修してください。専用の塗料が用意されています。詳しくはヤマハ取扱店へお問い合わせください。

JMU37120

定期点検

JWM02010

⚠警　告

これらの手順には特殊工具、補給品および技術スキルが必要です。お客様自身が整備作業についてあまり熟知されず、工具や補給品がない場合は、ヤマハ取扱店またはその他の有資格の整備士に保守を依頼してください。この手順には、エンジンの分解作業と危険な部品の取り扱いが含まれます。可動、高熱または電気部品による負傷を防止するために：

- **自分自身で整備作業をおこなう場合は、特別な指示がない限り、エンジンを停止して、各キー類とカールコードを自分の身に付けて保管してください。**
- **高熱の部品や各種液体の取扱いは、エンジンが冷却した後におこなってください。**
- **エンジンは、必ず完全に再組付けしてから運転してください。**

JMU34150

シビアコンディション時の取扱い条件

シビアコンディション時の取扱い条件とは、以下に示す通常の操作を単独または組み合わせて行った場合を指します。

- 長時間にわたり、船外機を最大回転数 (r/min) またはそれに近い回転数で継続して運転した場合
- 長時間にわたり、船外機を低い回転数 (r/min) で継続して運転した場合
- 短時間の急加速および急減速を行った後、エンジンが適切な動作温度に達する前にエンジンを停止した場合
- 急加速と急減速を頻繁に行った場合
- シフト操作を頻繁に行った場合
- エンジンの始動と停止を頻繁に行った場合
- 積載物を軽い状態と重い状態とに頻繁に変化させて、運転した場合

上記のような条件で船外機を運転した場合、頻繁な整備が必要になります。当社は、整備手帳に定めた整備の周期に対し、その 1/2 の間隔で整備を行うようにお客様に勧告致します。たとえば、ある整備を 50 時間毎に実施すると定めている場合は、(上記のような過度の取扱い条件の場合)25 時間毎に整備を行ってください。そうすることにより、エンジン構成パーツの短期間での劣化を防ぐことができます。

JMU30567

定期点検表

要　点

- 作業内容についての説明は本章の各項目を参照ください。
- この点検表は1年200時間を想定したメンテナンスサイクルで冷却水通路の水洗が行なわれていることが基本となっています。トローリング（微速航走）等での使用が多い場合は、通常のメンテナンスサイクルよりも早めに点検を行ってください。
- 各部の点検結果により分解・修理作業を必要とする場合があります。
- 消耗部品及び油脂類は、保障期間によらず使用過程で確実に消耗・劣化していき徐々に機能を果たさなくなる部品です。
- 酸性水域や泥水、濁り水のような沈殿物の多い水域等でのご使用後は、真水を使って洗浄してください。お客様の船外機の使用状況により、点検時間が異なる場合がありますのでご了承ください。詳しいことは、ヤマハ取扱店へご相談ください。

“●”印の項目については、お客様ご自身で点検を行なってください。
“○”印の項目については、最寄りのヤマハ取扱店に依頼してください。

項目	内容	初回	次回		
		10時間（1ヶ月）	50時間（3ヶ月）	100時間毎（6ヶ月毎）	200時間毎（1年毎）
アノード（外部取り付き）	点検／交換			●/○	
バッテリ（電解液の量、ターミナル）	点検	●/○	●/○	●/○	
バッテリ（電解液の量、ターミナル）	補充／充電／交換			○	
冷却水洩れ	点検／交換	○	○	○	
カウリングクランプ	点検				○
燃料フィルタ（分解交換タイプ）	点検／交換	●/○	●/○	●/○	
燃料ホース（高圧燃料経路）	点検	●	●	●	
燃料ホース（高圧燃料経路）	点検／交換	○	○	○	
燃料ホース（低圧燃料経路）	点検	●	●	●	
燃料ホース（低圧燃料経路）	点検／交換	○	○	○	
燃料／オイル洩れ	点検	○	○	○	
燃料タンク（ヤマハ専用タンク）	点検／清掃	○	○	○	
ギヤオイル	交換		●/○	●/○	
グリスポイント	注入		●/○	●/○	

項目	内容	初回	次回		
		10 時間（1ヶ月）	50 時間（3ヶ月）	100 時間毎（6ヶ月毎）	200 時間毎（1 年毎）
エンジンのかかり具合／騒音	点検	●/○	●/○	●/○	
アイドリングの具合／騒音	点検	●/○	●/○	●/○	
プロペラ／プロペラナット／割ピン	点検／交換	●/○	●/○	●/○	
シフトリンク／シフトケーブル	点検／調整／交換	○	○	○	
サーモスタット	点検／交換				○
スロットルリンク／スロットルケーブル／スロットルピックアップタイミング	点検／調整／交換				○
インペラ／ウォータポンプハウジング	点検／交換			○	
冷却水点検孔の水	点検	●/○	●/○	●/○	
冷却水取入口	点検	●/○	●/○	●/○	
エンジンスイッチ／ストップスイッチ／チョークスイッチ	点検／交換	○	○	○	
ワイヤハーネス接続部／ワイヤカプラ接合部	点検／交換	○	○	○	
高圧燃料ポンプ駆動ベルト	点検／交換			○	○
スパークプラグ	点検／交換			●/○	
スパークプラグキャップ／ハイテンションコード	点検／交換			○	

JMU28878

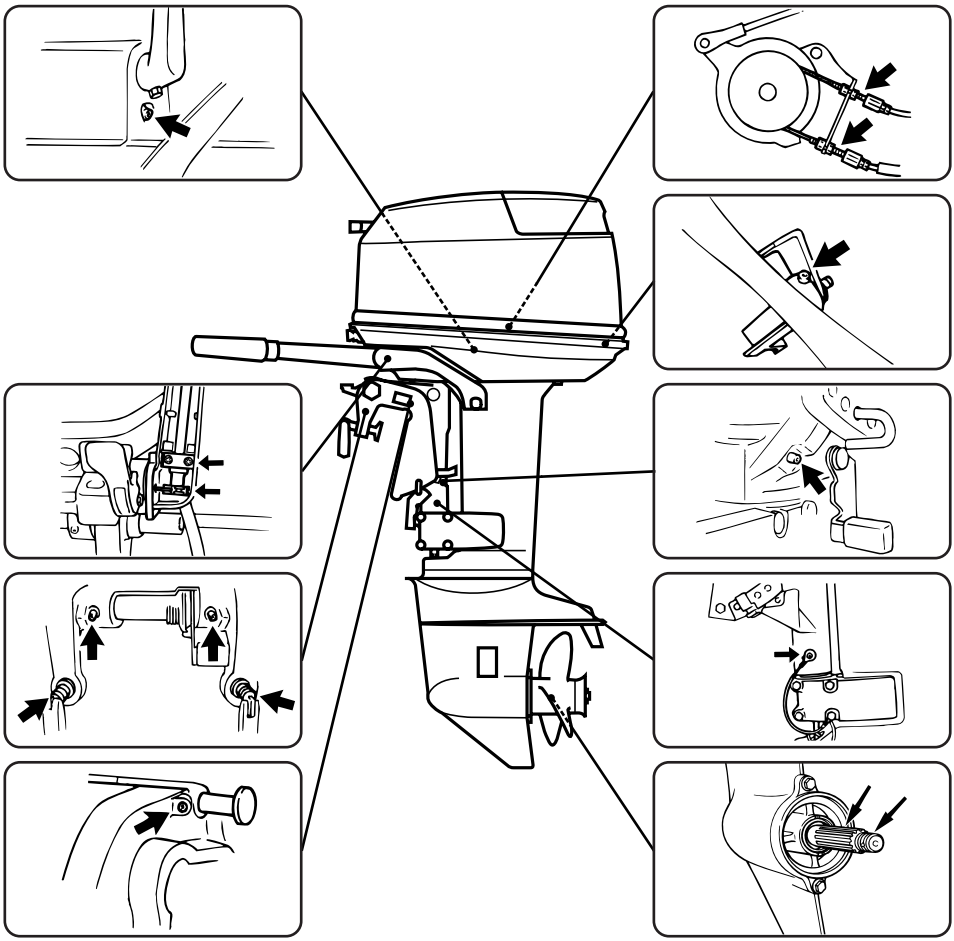
定期点検表

項目	内容	次回	
		500 時間毎（2 年 6ヶ月毎）	1000 時間毎（5 年毎）
アノード（シリンダヘッド、サーモスタットカバー）	点検／交換	○	
アノード（エキゾーストカバー、冷却水経路カバー、レクチファイア / レギュレータカバー）	交換	○	
燃料ポンプ	点検／交換	○	
インペラ／ウォータポンプハウジング	交換	○	
エキゾーストガイド、エキゾーストマニホールド	点検／交換		○

JMU28941

グリス給脂箇所

ヤマハグリス A （耐水グリス）
部品番号　90890-69910(50g)
90890-69911(250g)
ヤマハグリス D （耐食グリス）プロペラシャフト用
部品番号　90890-69920(50g)
25B, 30H



ZMU02918

JMU28954

スパークプラグの点検

スパークプラグは､点検が簡単なエンジンの重要な構成部品です｡スパークプラグの状態は、エンジン性能に影響を与えます｡スパークプラグは、電極にカーボン等が付着して

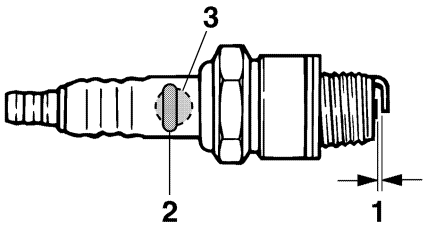
徐々に劣化して行きますので、定期的に外して点検を行なう必要があります。電極が消耗していたり、カーボン等で汚損している場合は交換してください。

1. 全てのスパークプラグキャップをスパークプラグから外してください。
2. スパークプラグを取り外します。電極が消耗していたり、カーボン等で汚損している場合は交換してください。**警告！スパークプラグ脱着の際は、碍子を損傷させないように注意してください。漏電して、火災等を誘発する恐れがあります。**

[JWM00561]

標準スパークプラグ；
25BWH B7HS-10
30HWH B8HS-10

3. 必ず規定のスパークプラグをご使用ください。エンジンが適切に作動しなくなる恐れがあります。電極の隙間は、シックネスゲージを用いて点検し、規定値に合わせてください。



ZMU02179

1. スパークプラグギャップ
2. スパークプラグマーク（NGK）
3. スパークプラグ品番

スパークプラグギャップ；
0.9–1.0 mm

4. スパークプラグの取り付けは、取り付け面をきれいに拭いて規定トルクで締めてください。

スパークプラグ締め付けトルク；
25.0 Nm (2.55 kgf-m)

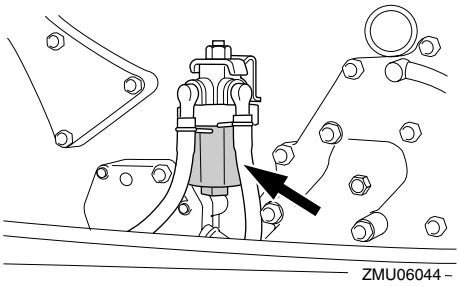
要　点

新しいスパークプラグを取り付ける際にトルクレンチが準備できない時は、指でいっぱいに締め込んだ後、プラグレンチを使用して1/4 ～ 1/2 回転締め込んでください。出来るだけ早い時期に、トルクレンチを使用して規定値で締めてください。

JMU37450

燃料フィルタの点検

燃料フィルタは定期的に点検してください。燃料フィルタの中に水や異物等が混入している場合は、清掃または交換してください。清掃または交換の際は、ヤマハ取扱店へご相談ください。



ZMU06044

JMU29041

アイドリングスピード（無負荷最低速回転）の点検

JWM00451

⚠警　告

- **エンジン運転中は電装部品に触れたり、外したりしないでください。**
- **エンジン運転中は手、髪、衣服等が回転部品に巻き込まれないように注意してくだ**

さい。

JCM00490

注　意

この作業は水上で行なってください。陸上で行なう場合は水洗キットや水槽を使って行なってください。

本作業は診断用のタコメータ（エンジン回転計）が必要です。水洗キットや水槽を使った点検では水上での点検結果と違うことがあります。

1. 中立（ニュートラル）でエンジンを始動させ、暖機運転を終了させます。
2. 規定のアイドリングスピード（8ページを参照ください。）であるか点検します。

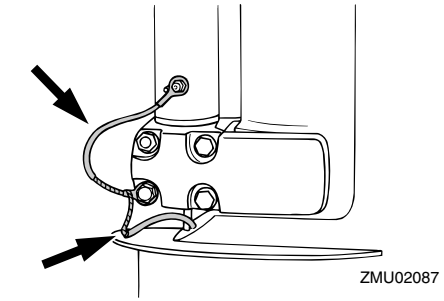
要　点

アイドリングスピードの点検はエンジンが完全に暖まった状態で行なってください。点検が困難な場合や調整が必要な場合はヤマハ取扱店へご相談ください。

JMU29112

配線と各接続部の点検

- 導通用の各アース線が確実に取り付けられていることを点検してください。
- 各配線の接続が確実にされていることを点検してください。



ZMU02087

JMU32111

プロペラの点検

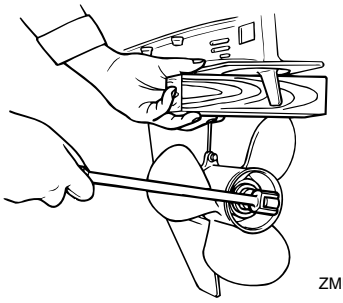
JWM01880

⚠警　告

プロペラ付近は偶発的原因でエンジンが始動したときに、大きな事故につながる恐れがあります。

- **プロペラの点検や脱着等を行なう前には、シフトを中立（ニュートラル）にし、エンジンスイッチからキーを抜き取り、緊急エンジン停止スイッチのロックプレートを外してください。またバッテリコードをバッテリから外してください。**

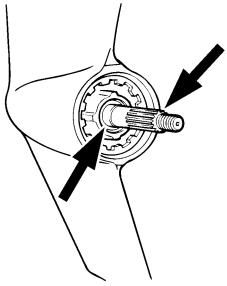
プロペラナットを締めたり緩めたりするときは素手でプロペラを持たないでください。プロペラとキャビテーションプレートの間に木片等をかませてから行なってください。



ZMU01897

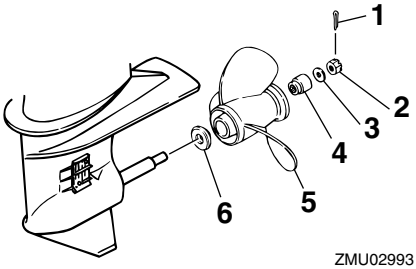
主な点検箇所

- プロペラブレードの減り、表面の侵食、損傷等の点検をします。
- プロペラシャフトの損傷等を点検します。
- プロペラシャフトに釣り糸が巻き込まれていないか点検します。
- プロペラシャフトのオイルシールが損傷していないか点検します。



ZMU01803

JMU30661
プロペラの取り外し
JMU29197
スプライン仕様
1. プライヤを使って割ピンを伸ばし、引き抜きます。
2. プロペラナット、ワッシャ、スペーサ（スペーサ付きの場合）を取り外します。
警告！プロペラナットを緩めるときは素手でプロペラを持たないでください。
[JWM01890]



ZMU02993

1. 割ピン
2. プロペラナット
3. プロペラ
4. スペーサ
5. スラストワッシャ
6. ワッシャ

3. プロペラ、ワッシャ（ワッシャ付きの場合）、スラストワッシャを取り外します。

プロペラナットの２面幅；
22 mm

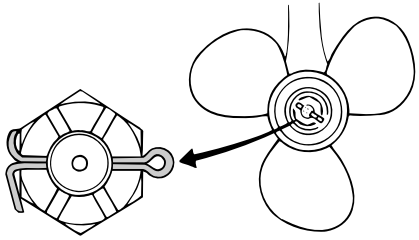
JMU30671
プロペラの取り付け
JMU29233
スプライン仕様
JCM00500
注　意

割ピンは新しいものを使用して端を確実に折り曲げてください。プロペラ脱落の原因となります。

1. プロペラシャフトにヤマハグリス D（耐食グリス）を塗布します。
2. スラストワッシャを広がっている方からプロペラシャフトに入れ、ワッシャ付きはワッシャを入れ、プロペラを取り付けます。***注意：*プロペラを取り付ける前には、スラストワッシャを必ず入れてください。プロペラとロワケースが接触し損傷する恐れがあります。**[JCM01880]
3. スペーサ付きはスペーサを入れ、ワッシャを取り付けます。そしてプロペラナットを規定トルクで締め付けます。

規定トルク；
35.0 Nm (3.57 kgf-m)

4. プロペラシャフトとプロペラナットの穴位置を合わせ、新しい割ピンを取り付けます。割ピンの端を折り曲げます。***注意：*使用済のコッターピンを再利用しないください。運転中にプロペラが脱落する恐れがあります。**[JCM01890]


ZMU02063

要　点

規定トルクでプロペラナットを締め付けたときにプロペラシャフトの穴位置が合わないときは、更に締め込んで穴位置を合わせてください。

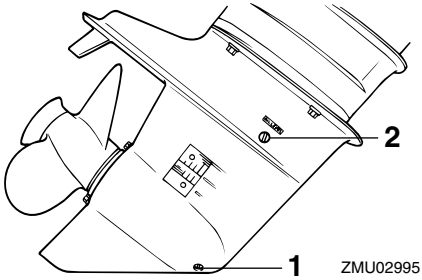
JMU29287
ギヤオイルの交換
JWM00800
⚠警　告

- **チルトアップされた船外機の下には入ら**

ないでください。偶発的に船外機が降りてきた場合には、重い事故につながる恐れがあります。

- **船外機はボートトランサムや専用スタンドに確実に固定してください。**

1. ドレンプラグが真下にくる位置まで船外機を傾けます。
2. 廃油の受け皿をロワケースの下に敷きます。
3. ギヤオイルドレンプラグとガスケットを外します。***注意：*磁石仕様のギヤオイルドレンスクリュに大量の金属粒子が付着している場合は、ロワーユニットに問題がある可能性があります。ヤマハ取扱店にご相談ください。**[JCM01900]



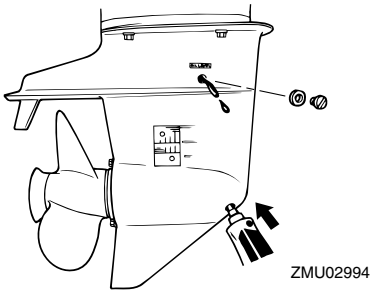
1. ギヤオイルドレンプラグ
2. オイルレベルプラグ

要　点

- ギヤオイルドレンプラグが磁石仕様の場合、ギヤオイルドレンプラグに金属粉が付着していることがあります。取り除いてから再び取り付けてください。
- ガスケットは新しいものを使用してください。取り外したガスケットは再使用しないでください。

4. オイルレベルプラグとガスケットを外し、ギヤオイルを残らず排出させます。***注意:*排出したギヤオイルが白濁しているときは、ギヤケースの損傷等の恐れがあります。ヤマハ取扱店へ点検、修理を依頼してください。**[JCM00711]
5. 船外機を垂直状態に保ち、ヤマハ船外機ギヤオイル（ハイポイドギヤオイル#90）をオイルドレン穴より注入します。

ギヤオイル容量； 0.320 L



6. 注入したギヤオイルがオイルレベル穴から溢れ出したら、新しいガスケットを取り付けたオイルレベルプラグを締めます。

オイルレベルプラグ締め付けトルク； 9 Nm (0.9 kgf-m)

7. 新しいガスケットを取り付けたギヤオイルドレンプラグを締めます。

ギヤオイルドレンプラグ締め付けトルク； 9 Nm (0.9 kgf-m)

JMU29302

専用燃料タンクの清掃

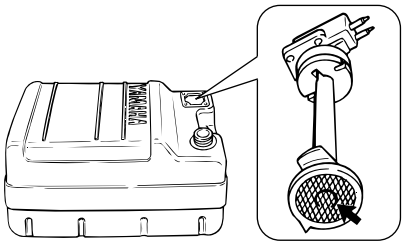
JWM00920

⚠警　告

- **ガソリンには、高い引火性と爆発性があります。**
- **作業上で何か分からないことがある時に**

は、ヤマハ取扱店にご相談ください。
- **作業中は、タバコ等の火気や他の火種になるようなものを近づけないでください。**
- **作業は換気の良い場所で行なってください。専用燃料タンクはボートから降ろして行なってください。**
- **燃料がこぼれた場合には直ちに拭き取ってください。**
- **専用燃料タンクの再組付けは注意深く確実に行なってください。組み付け不良や取り付け不良は、燃料がもれ火災や爆発の原因となる恐れがあります。**
- **古くなったガソリンは、地域の規制に従って処分してください。**

1. 専用燃料タンク内を空にしてください。
2. 燃料ホースコネクタ本体の取り付けネジを緩め外します。



ZMU02324

3. フィルタ（サクションパイプの端に装着）を洗浄し、乾燥させます。
4. パッキンを新しいものと交換して、再取り付けします。

JMU29312

アノードの点検

アノードは、船外機を電蝕（水中の微弱電気による金属の腐蝕）から保護するためのものです。外部アノードの状態を点検し、新品の3分の1以上が消耗している場合は交換します。外部アノードの交換は、ヤマハ取扱店で行なってください。

JCM00720

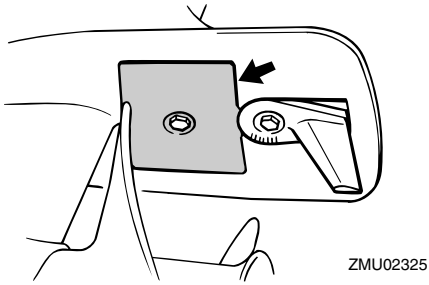
注　意

アノードに塗料を塗った場合は、電蝕防止効果がなくなりますので注意してください。

要　点

外部アノードにアース線が付いている機種の場合は、アース線の取り付け状態を点検してください。

エンジン内部に付いているアノードの点検と交換については、ヤマハ取扱店にご相談ください。



ZMU02325

JMU29322

バッテリの点検（電動始動仕様）

JWM01900

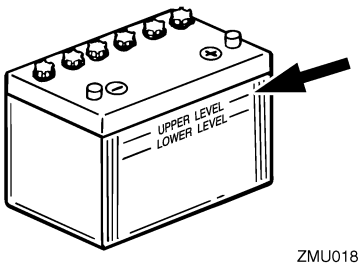
⚠警　告

バッテリの電解液は有害で腐食性があり、バッテリから爆発性の水素ガスが発生します。バッテリの近くで作業する場合は：
- **ゴーグル（目を保護する）とゴム製手袋を着用してください。**
- **バッテリの近くでタバコを吸ったり、その他の火種をバッテリに近づけたりしないでください。**

お使いのバッテリの安全に関する詳細情報は9ページを参照してください。

バッテリの点検手順はバッテリによって異なります。ここでは、多くのバッテリに適用される一般的な点検方法を示しますが、バッテリの取扱説明書を必ず参照して点検作業

を行ってください。
1. 電解液の量を点検します。



ZMU01810

2. バッテリの充電状態を点検します。ボートにデジタルスピードメータが装備されている場合は、電圧計とバッテリ警報表示によってバッテリの充電状態を調べることができます。デジタルスピードメータが装備されていない場合、またはバッテリの充電をする必要があるときは最寄りのヤマハ販売店にご相談ください。
3. バッテリターミナルの点検をします。バッテリターミナルに汚れやゆるみがなく、絶縁カバーが取り付けられていることを点検します。

JMU29333

バッテリの取り付け

JWM00570

⚠警　告

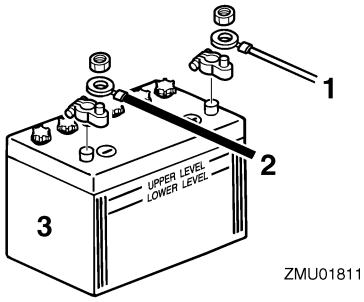
バッテリは船内の乾燥した、換気の良い、振動の少ない水平な場所に確実に固定してください。

JCM01123

注　意

バッテリコードの (+) と (-) を逆に接続すると、電装品の故障等の原因になります。

1. バッテリに関する作業をおこなう前にメインスイッチが“OFF”(off) になっていることを確認してください(メインスイッチが装備されている場合)。
2. バッテリコードの接続は先に赤コード端子を (+) 側に、後から黒コード端子を (-) 側に確実に取り付けてください。



ZMU01811

1. 赤コード
2. 黒コード
3. バッテリ

3. バッテリ端子とバッテリコードの接続は、接触面がきれいな状態で確実に行なってください。接触面に汚れ、ゆるみ等があると、エンジンの始動ができなくなる恐れがあります。

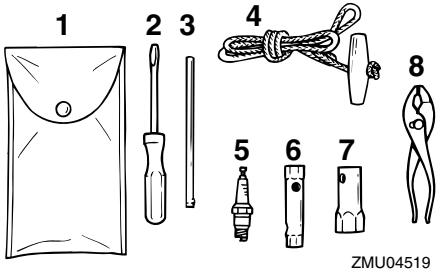
JMU29371

バッテリの取り外し

1. バッテリカットオフスイッチ(装備されている場合) とエンジンスイッチを“OFF”にします。***注意：*スイッチを“ON”のままにすると、電気系統が損傷する恐れがあります。**[JCM01930]
2. (-) ターミナルからバッテリコードを外します。***注意：*ショートと電気系統の損傷防止のために、かならず最初に (-) ターミナルからバッテリコードを外してください。**[JCM01940]
3. (+) ターミナルからバッテリコードを外し、バッテリをボートから下ろします。
4. メーカーの指示に従いバッテリを清掃、手入れして保管します。

JMU30110

付属工具と部品



1. 工具袋
2. ドライバ (+/-)
3. ハンドル
4. 応急始動用ロープ
5. スパークプラグ（気筒数と同数）
6. ボックスレンチ (10-12)
7. スパークプラグレンチ
8. プライヤ

JMU29427

故障と対策

万一、故障が生じたときは、ヤマハ取扱店にご相談ください。一般的に考えられる故障を選び、その想定される原因を列記いたします。（機種や仕様により該当しない項目も含まれております）
不安な箇所がありましたら、できるだけそのままの状態でヤマハ取扱店に連絡し専門技術者におまかせください。
エンジン警報付き機種で警報表示が点滅している場合は、ヤマハ取扱店にご相談ください。

スタータモータが動かない

Q. バッテリの性能が低下していませんか？規定容量以外のバッテリを使用していませんか？
A. バッテリ状態の点検。規定容量のバッテリの使用。

Q. バッテリターミナルが緩んでいませんか？または腐蝕していませんか？
A. バッテリコードの締め付け、ターミナルの清掃。

Q. ヒューズが切れていませんか？
A. 原因を調べ、新しいものに交換。

Q. スタータモータが故障していませんか？
A. ヤマハ取扱店にて修理。

Q. 前進、または後進にシフトが入っていませんか？
A. 中立（ニュートラル）に戻す。

エンジンが始動しない。（スタータモータは動く）

Q. 燃料タンクが空になっていませんか？
A. 燃料を入れる。

Q. 燃料が汚染されている、または古くなっていませんか？
A. 新しい、きれいな燃料へ交換。

Q. 燃料フィルタが詰まっていませんか？
A. 清掃、または交換。

Q. 始動手順が間違っていませんか？
A. 26 ページを参照ください。

Q. 燃料ポンプが故障していませんか？
A. ヤマハ取扱店にて修理。

Q. スパークプラグが不良になっていませんか？または、推奨以外のスパークプラグを使用していませんか？
A. 電極の清掃、または交換。

Q. スパークプラグキャップが外れていませんか？
A. 正しく取り付ける。

Q. 配線が接続不良、または損傷していませんか？
A. 接続の確認、または配線の交換。

Q. 電装部品が故障していませんか？
A. ヤマハ取扱店にて修理。

Q. カールコードのロックプレートが外れていませんか？
A. 緊急エンジン停止スイッチにロックプレートを差し込む。

Q. エンジン内部が損傷していませんか？
A. ヤマハ取扱店にて修理。

アイドリング（無負荷最低速回転）が不安定、またはエンストする。

Q. スパークプラグが不良になっていませんか？

A. 電極の清掃、または交換。

Q. 燃料ホースが圧迫されていませんか？
A. 燃料ホース取り回しの点検。

Q. 燃料が汚染、または古くなっていませんか？
A. 新しい、きれいな燃料へ交換。

Q. 燃料フィルタが詰まっていませんか？
A. 清掃、または交換。

Q. 電装部品が故障していませんか？
A. ヤマハ取扱店にて修理。

Q. 警報機構が作動していますか？
A. ヤマハ取扱店にご相談ください。

Q. スパークプラグギャップが適切ですか？
A. 正規の隙間に合わせる。

Q. 配線が接続不良、または損傷していませんか？
A. 接続の確認、または配線の交換。

Q. 推奨外オイルを使用していませんか？
A. 推奨オイルへ交換。

Q. サーモスタットが不良になっていませんか？
A. ヤマハ取扱店にて修理。

Q. キャブレタが調整不良になっていませんか？
A. ヤマハ取扱店にて修理。

Q. 燃料ポンプが故障していませんか？
A. ヤマハ取扱店にて修理。

Q. エアベントスクリュが閉まっていませんか？
A. エアベントスクリュを開ける。

Q. チョークノブが引かれていませんか？
A. チョークノブを戻す。

Q. チルトを上げ過ぎていませんか？
A. チルトを下げる。

Q. キャブレタが詰まっていませんか？
A. ヤマハ取扱店にて修理。

Q. 燃料ホースが接続不良になっていませんか？
A. 接続箇所の点検。

Q. スロットルバルブが調整不良になっていませんか？
A. ヤマハ取扱店にて修理。

Q. バッテリコードが外れていませんか？
A. 確実に接続。

警報ブザーが鳴る、または警報灯が点灯する。

Q. 冷却経路が詰まっていませんか？
A. 冷却水取入口の点検。

Q. エンジンオイル不足になっていませんか？
A. 規定量まで補充。

Q. スパークプラグ熱価が適切ですか？
A. 正規熱価のものに交換。

Q. 推奨外オイルを使用していませんか？
A. 推奨オイルへ交換。

Q. オイルが劣化していませんか？
A. 新しいオイルへ交換。

Q. オイルフィルタが詰まっていませんか？

A. ヤマハ取扱店にて修理。

Q. オイルポンプが故障していませんか？
A. ヤマハ取扱店にて修理。

Q. ボートが過重荷になっていませんか？
A. ビルジ、積み荷等の確認。

Q. ウォータポンプ、またはサーモスタットが故障していませんか？
A. ヤマハ取扱店にて修理。

Q. 燃料フィルターカップ内に水が入っていませんか？
A. フィルターカップ内の排水。

エンジンの力がない。
Q. プロペラが損傷していませんか？
A. プロペラの交換。

Q. プロペラサイズが適切ですか？
A. 指定回転範囲に適合するプロペラへ交換。

Q. トリム角度が調整不良になっていませんか？
A. 再調整。

Q. 船外機取り付け高さが適切ですか？
A. 再調整。

Q. 警報機構が作動しますか？
A. ヤマハ取扱店にご相談ください。

Q. 船底への貝、海草類が付着していませんか？
A. 清掃。

Q. スパークプラグが適切ですか？
A. 電極の清掃、または交換。

Q. 船外機への貝、海草類が付着していませんか？
A. 清掃。

Q. 燃料ホースが圧迫されていませんか？
A. 燃料ホース取り回しの点検。

Q. 燃料フィルタが詰まっていませんか？
A. 清掃、または交換。

Q. 燃料が汚染、または古くなっていませんか？
A. 新しい、きれいな燃料へ交換。

Q. スパークプラグギャップが適切ですか？
A. 正規の隙間に合わせる。

Q. 配線が接続不良、または損傷していませんか？
A. 接続の確認、または配線の交換。

Q. 電装部品が故障していませんか？
A. ヤマハ取扱店にて修理。

Q. 推奨外燃料を使用していませんか？
A. 推奨燃料へ交換。

Q. 推奨外オイルを使用していませんか？
A. 推奨オイルへ交換。

Q. サーモスタットが不良になっていませんか？
A. ヤマハ取扱店にて修理。

Q. エアベントスクリュが閉まっていませんか？
A. エアベントスクリュを開ける。

Q. 燃料ポンプが故障していませんか？
A. ヤマハ取扱店にて修理。

Q. 燃料ホースが接続不良になっていませんか？
A. 接続箇所の点検。

Q. スパークプラグ熱価が適切ですか？
A. 正規熱価のものに交換。

Q. 高圧燃料ポンプベルトが切れていませんか？
A. ヤマハ取扱店にて修理。

Q. シフトポジションスイッチが作動不良になっていませんか？
A. ヤマハ取扱店にて修理。

振動が大きい。
Q. プロペラが損傷していませんか？
A. プロペラの交換。

Q. プロペラシャフトが損傷していませんか？
A. ヤマハ取扱店にて修理。

Q. 海藻、貝類がプロペラへ付着していませんか？
A. 除去、清掃。

Q. 船外機取り付けボルト等が緩んでいませんか？
A. 締め付け。

Q. ハンドルスイベル部が緩み、または損傷していませんか？
A. 締め付け、またはヤマハ取扱店にて修理。

JMU29433

応急処置

JMU29440

衝撃を受けた場合

JWM00870

⚠警　告

船外機は航走中に、水中の浮遊物等との衝突による重大な損傷を受けることがあります。損傷を受けた船外機は安全に航走できません。

航走中の船外機に水中の物体が当たった場合は、次の手順に従ってください。


ZMU01814

1. エンジンを停止してください。
2. 各部の作動を確認し、さらに各部品の損傷も点検してください。また、ボートの損傷具合も調べてください。
3. ゆっくりと細心の注意をはらいながら、最寄りの港へ引き返してください。
4. 再度ご使用になる前に、必ずヤマハ取扱店の点検を受けてください。

JMU29463

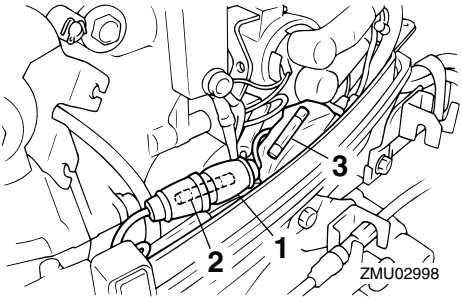
ヒューズの交換

ヒューズが切れたとき（電動始動仕様）はヒューズホルダーを開け、中のヒューズを新しい同容量のものと交換します。

JWM00631

⚠警　告

規定容量のヒューズを使用してください。規定容量以外のヒューズを使用すると、電装系の故障や火災の原因となる恐れがあります。



1. ヒューズホルダ
2. ヒューズ（20 A）
3. スペアヒューズ（20 A）

新しいヒューズに替えてもすぐに切れる場合は、ヤマハ取扱店にご相談ください。

JMU29533

始動装置が作動しない場合

始動装置が動かない場合は応急始動用ロープでエンジンを始動することができます。ただし、ボートの仕様やぎ装状態によっては操作が非常に困難な場合があります。

JWM01022

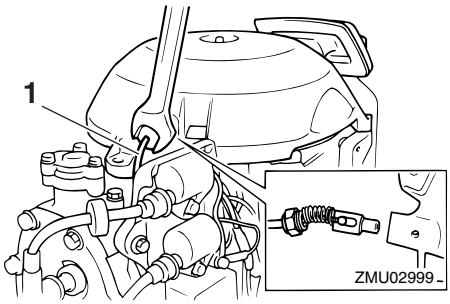
⚠警　告

- **非常時に最寄りの港へ引き返すときに限って、この操作を行なってください。**
- **シフトを必ず中立（ニュートラル）にしてください。応急始動用ロープを使用してエンジンを始動する場合、始動安全装置は作動しません。ボートが急発進し、事故につながる恐れがあります。**
- **応急始動用ロープを引いてエンジンを始動させるときには、背後に人が居ないことを確認してください。**
- **エンジン始動の際には、衣服等を巻き込まれないようにしてください。**
- **エンジン始動後には、フライホイールや他の回転部分に触れないようにしてください。**
- **エンジン始動後には、手動始動装置やトップカウルを取り付けないでください。**
- **エンジン運転中には、イグニションコイル、高圧線、スパークプラグ等に触れないようにしてください。感電する恐れがあります。**

JMU29562

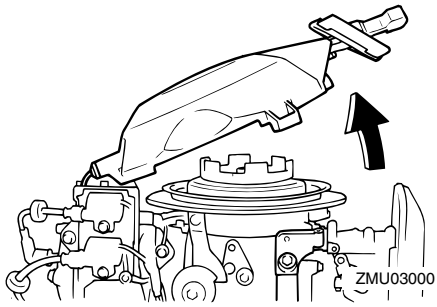
応急始動

1. トップカウルを外します。
2. 始動安全装置が装備されている機種は、始動安全ケーブルを外します。



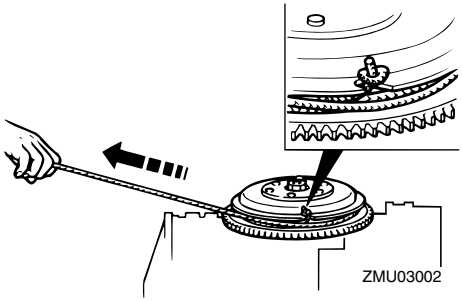
1. 始動安全ケーブル

3. ボルトを外して手動始動装置/フライホイールカバーを外します。



4. 26ページを参照して始動の準備をします。シフトを中立（ニュートラル）にして、緊急エンジン停止スイッチ（装備されている場合）にカールコードのロックプレートを差し込みます。エンジンスイッチの装備されているものは、“**ON**”

にします。
5. エンジンが冷えているときはチョークノブを引きます。エンジンが始動し、暖まってきたら、徐々にチョークノブを元の位置まで戻します。
6. 応急始動用ロープの結び目をフライホイールの切り欠きに入れ、時計方向に 1 ～ 2 回巻き付けます。
7. 抵抗を感じるところまでロープをゆっくりと引き、そこから一気に引っ張ります。一度で始動しない場合は操作を繰り返してください。



JMU33501

船外機を水中に落とした場合

船外機に浸水した場合は、直ちにヤマハのディーラーまでにお持ちください。エンジン内各部に錆や腐蝕の発生を促す原因となります。***注意：*ヤマハ取扱店での分解整備を受けずに再使用しないでください。**[JCM00401]

JMU30133

お客様ご相談窓口のご案内

お買い上げいただきました商品についてのお問い合わせ・ご相談は「ご購入店」または、ヤマハサービスセンターにお問い合わせください。

ご購入店

直轄拠点、販売会社一覧

平成19年12月10日現在

エリア	販売会社一覧	部署	〒番号	住　所	TEL
北海道	ヤマキ船舶化工（株）	サービス課	063-0811	北海道札幌市西区琴似一条6−4−3 札幌琴似第一ビルディング1F	011-631-1611
東　北	ヤマハ発動機（株）	北日本営業所 北日本サービス課	981-0933	宮城県仙台市青葉区柏木1丁目 2番45号 フォレスト仙台5F	022-727-5180
関　東	ヤマハ発動機（株）	東京営業所 東京サービス課	236-0007	神奈川県横浜市金沢区白帆4−4	045-775-2450
中　部	ヤマハ発動機（株）	中部営業所 中部サービス課	456-0002	愛知県名古屋市熱田区金山町1−7−8 住友生命金山ビル2F	052-678-3553
関　西	ヤマハ発動機（株）	西日本営業所 関西サービス課	662-0934	兵庫県西宮市西宮浜4−16−2	0798-37-2004
中四国	ヤマハ発動機（株）	西日本営業所 中四国サービス課	730-0826	広島県広島市中区南吉島1丁目1番 ボートパーク広島内	082-545-1503
九　州	ヤマハ発動機（株）	九州営業所 九州サービス課	819-0001	福岡県福岡市西区小戸2丁目11−1 西福岡マリーナ内	092-885-6523

ヤマハ発動機株式会社
お客様相談室
〒438−8501
静岡県磐田市新貝2500

0120-090-819

オープン時間　月曜〜金曜（除く祝日）
9：00〜12：00　13：00〜17：00

携帯電話ではフリーダイヤルを
ご利用できません。
0538-32-1166をご利用下さい。

JMU30142

不許複製

名称： 25B, 30H
船外機取扱説明書
部品番号： 69R-28199-08
発行： ヤマハ発動機株式会社
2008 年 4 月

YAMAHA
ヤマハ発動機株式会社
Printed in Japan
April 2008-0.1 × 1

再生紙を使用しています。

Outboard

保証登録書

①販売店控（FAX用）

フリガナ	
ご 氏 名	
フリガナ	
ご 住 所	〒□□□−□□□□
T E L ：	（ ）
船 名	定係港

販 売 店 名	（販売店 コード）
	TEL番号： （ ）
	FAX番号： （ ）
備考（アフターサービス店等ある場合ご記入下さい）	

【お客様の個人情報のお取扱いについて】

ご記入頂いた個人情報項目は、ヤマハ発動機グループ各社（ヤマハ発動機㈱、ヤマハ発動機販売㈱、㈱ワイズギア等）とお買い上げ販売店で共同利用することがあります。

《利用目的》
保証登録、保証業務、ヤマハ発動機グループ各社、販売店からの製品・販売・サービスイベント等の各種情報提供と市場アンケート調査等の情報収集及びお客様データの統計処理に利用します。

《ご確認項目》
1）商品の取扱い説明を受けられましたか？ 〈 はい、いいえ 〉
2）保証内容、整備手帳の説明を受けましたか？ 〈 はい、いいえ 〉
3）初回点検、定期点検整備についての説明は受けましたか？ 〈 はい、いいえ 〉
4）ヤマハ発動機グループ各社、ご購入販売店からの各種情報提供を承諾しますか？ 〈 はい、いいえ 〉

＊安全に関わる品質問題が発生した場合には〈いいえ〉とお答えになられたお客様にもご案内させて頂きます。

上記内容をご確認の上、下記、ご署名をお願いします。

お客様ご署名
ご署名日 ／ ／

＊尚、お客様は、ご本人の情報の開示・訂正・利用停止等を求めることができます。下記へお申し付け下さい。

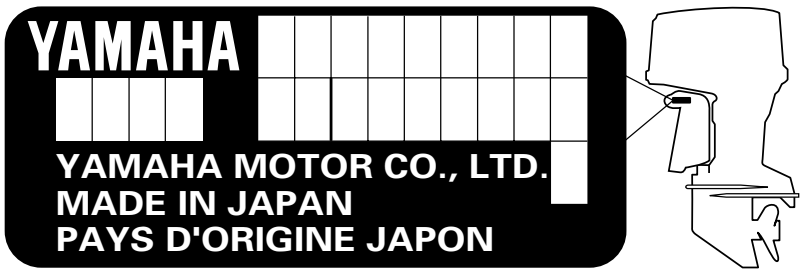
管理責任部署 ヤマハ発動機株式会社
国内マリン事業部 営業室 電話 053−594−4175

■納入時の記入項目

点検実施者が記入して下さい。

商 品 コ ー ド	

クランプブラケットの製造番号プレートの番号を転記して下さい。



保証開始日：２０ 年 月 日（納入日）	～	一般保証満了日：２０ 年 月 日	
		特別保証満了日：２０ 年 月 日	
取付艇種		用 途（マル印）	レジャー ・ 業務（営業）
ヤマハ拠点名		ヤマハ拠点コード	

■納入点検項目

※チェック欄への記入：該当する項目で説明が済んだもの或いは点検して良好なものはレ印を記入して下さい。

項 目	チェック	項 目	チェック
備品（取扱説明書、整備手帳、同梱工具、その他）		シフトの入り具合（F−N−R）	
外観の状態		スロットル（グリップ、レバー）の作動	
ロワーケースギヤオイルの量		プロペラ選定	
チルトの作動		エンジンオイル量（4サイクルモデル）	
各スイッチ類の作動		オートルーブシステムの作動（2サイクルモデル）	
オートルーブシステムの確認		高圧ポンプオイル量（ダイレクトインジェクションモデル）	
パイロットホールからの冷却水の出具合		お客様への取扱い説明	
アイドリング回転数のチェック		ならし運転についての説明	
タコメータの作動		取扱説明書、整備手帳の引渡し	

プロペラサイズ		最高回転数	rpm

YJB-0603

Outboard

保証登録書

②ヤマハ販売会社控

フリガナ	
ご 氏 名	
フリガナ	
ご 住 所	〒□□□−□□□□
T E L ：	（ ）
船 名	定係港

販 売 店 名	（販売店 コード）
	TEL番号： （ ）
	FAX番号： （ ）
備考（アフターサービス店等ある場合ご記入下さい）	

【お客様の個人情報のお取扱いについて】

ご記入頂いた個人情報項目は、ヤマハ発動機グループ各社（ヤマハ発動機㈱、ヤマハ発動機販売㈱、㈱ワイズギア等）とお買い上げ販売店で共同利用することがあります。

《利用目的》
保証登録、保証業務、ヤマハ発動機グループ各社、販売店からの製品・販売・サービスイベント等の各種情報提供と市場アンケート調査等の情報収集及びお客様データの統計処理に利用します。

《ご確認項目》
1）商品の取扱い説明を受けられましたか？ 〈 はい、いいえ 〉
2）保証内容、整備手帳の説明を受けましたか？ 〈 はい、いいえ 〉
3）初回点検、定期点検整備についての説明は受けましたか？ 〈 はい、いいえ 〉
4）ヤマハ発動機グループ各社、ご購入販売店からの各種情報提供を承諾しますか？ 〈 はい、いいえ 〉

＊安全に関わる品質問題が発生した場合には〈いいえ〉とお答えになられたお客様にもご案内させて頂きます。

上記内容をご確認の上、下記、ご署名をお願いします。

お客様ご署名
ご署名日 ／ ／

＊尚、お客様は、ご本人の情報の開示・訂正・利用停止等を求めることができます。下記へお申し付け下さい。

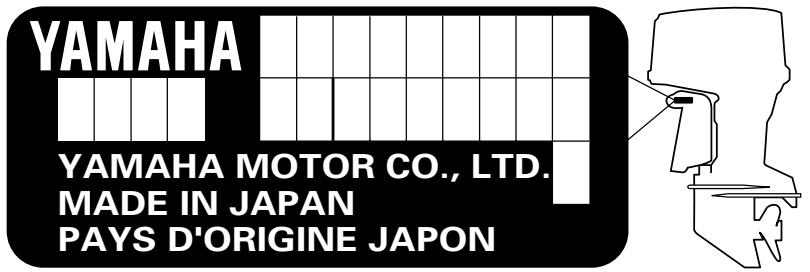
管理責任部署 ヤマハ発動機株式会社
国内マリン事業部 営業室 電話 053−594−4175

■納入時の記入項目

点検実施者が記入して下さい。

商 品 コ ー ド	

クランプブラケットの製造番号プレートの番号を転記して下さい。



保証開始日：２０ 年 月 日（納入日） ～	一般保証満了日：２０ 年 月 日
	特別保証満了日：２０ 年 月 日
取付艇種	用 途（マル印） レジャー ・ 業務（営業）
ヤマハ拠点名	ヤマハ拠点コード

■納入点検項目

※チェック欄への記入：該当する項目で説明が済んだもの或いは点検して良好なものはレ印を記入して下さい。

項 目	チェック	項 目	チェック
備品（取扱説明書、整備手帳、同梱工具、その他）		シフトの入り具合（F−N−R）	
外観の状態		スロットル（グリップ、レバー）の作動	
ロワーケースギヤオイルの量		プロペラ選定	
チルトの作動		エンジンオイル量（4サイクルモデル）	
各スイッチ類の作動		オートルーブシステムの作動（2サイクルモデル）	
オートルーブシステムの確認		高圧ポンプオイル量（ダイレクトインジェクションモデル）	
パイロットホールからの冷却水の出具合		お客様への取扱い説明	
アイドリング回転数のチェック		ならし運転についての説明	
タコメータの作動		取扱説明書、整備手帳の引渡し	

プロペラサイズ		最高回転数	rpm

YJB-0603

Outboard

保証登録書

③お客様控（保証書）

フリガナ	
ご 氏 名	
フリガナ	
ご 住 所	〒□□□−□□□□
Ｔ Ｅ Ｌ ：	（ ）
船 名	定係港

販 売 店 名	（販売店 コード）
ＴＥＬ番号：	（ ）
ＦＡＸ番号：	（ ）
備考（アフターサービス店等ある場合ご記入下さい）	

【お客様の個人情報のお取扱いについて】

ご記入頂いた個人情報項目は、ヤマハ発動機グループ各社（ヤマハ発動機㈱、ヤマハ発動機販売㈱、㈱ワイズギア等）とお買い上げ販売店で共同利用することがあります。

《利用目的》
保証登録、保証業務、ヤマハ発動機グループ各社、販売店からの製品・販売・サービスイベント等の各種情報提供と市場アンケート調査等の情報収集及びお客様データの統計処理に利用します。

《ご確認項目》
1）商品の取扱い説明を受けられましたか？ 〈 はい、いいえ 〉
2）保証内容、整備手帳の説明を受けましたか？ 〈 はい、いいえ 〉
3）初回点検、定期点検整備についての説明は受けましたか？ 〈 はい、いいえ 〉
4）ヤマハ発動機グループ各社、ご購入販売店からの各種情報提供を承諾しますか？ 〈 はい、いいえ 〉

＊安全に関わる品質問題が発生した場合には〈いいえ〉とお答えになられたお客様にもご案内させて頂きます。

上記内容をご確認の上、下記、ご署名をお願いします。

お客様ご署名
ご署名日 ／ ／

＊尚、お客様は、ご本人の情報の開示・訂正・利用停止等を求めることができます。下記へお申し付け下さい。

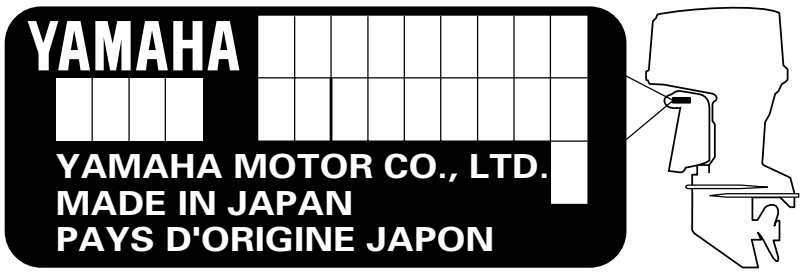
管理責任部署 ヤマハ発動機株式会社
国内マリン事業部 営業室 電話 053−594−4175

■納入時の記入項目

点検実施者が記入して下さい。

商 品 コ ー ド	

クランプブラケットの製造番号プレートの番号を転記して下さい。



保証開始日：２０ 年 月 日（納入日） ～	一般保証満了日：２０ 年 月 日
	特別保証満了日：２０ 年 月 日
取付艇種	用 途（マル印） レジャー ・ 業務（営業）
ヤマハ拠点名	ヤマハ拠点コード

■納入点検項目

※チェック欄への記入：該当する項目で説明が済んだもの或いは点検して良好なものはレ印を記入して下さい。

項 目	チェック	項 目	チェック
備品（取扱説明書、整備手帳、同梱工具、その他）		シフトの入り具合（Ｆ−Ｎ−Ｒ）	
外観の状態		スロットル（グリップ、レバー）の作動	
ロワーケースギヤオイルの量		プロペラ選定	
チルトの作動		エンジンオイル量（４サイクルモデル）	
各スイッチ類の作動		オートルーブシステムの作動（２サイクルモデル）	
オートルーブシステムの確認		高圧ポンプオイル量（ダイレクトインジェクションモデル）	
パイロットホールからの冷却水の出具合		お客様への取扱い説明	
アイドリング回転数のチェック		ならし運転についての説明	
タコメータの作動		取扱説明書、整備手帳の引渡し	

プロペラサイズ		最高回転数	rpm

YJB-0603

保 証 書

お買いあげいただきました裏面記載の製品に万一不具合がおきました場合にはこの保証書に基づき次の通り保証致します。
なお、この保証は日本国内で使用される当該製品に限り適用致します。

1．保証の発効
お買いあげいただきました当該製品の保証は、この保証書に弊社の販売店、取扱店が必要事項を記入の上、捺印することにより有効となります。

2．保証期間
保証期間は、納入日（お客様にお渡しした日）より一般保証１年間又は使用時間200時間、特別部品保証３年間又は使用時間300時間のいずれか先に到達したときまでと致します。特別保証部品はフューエルタンク等の燃料系部品、ステアリングブラケット等の操舵系部品、クランクシャフト等のエンジン部品、ドライブシャフト等の動力伝達系部品、ニュートラルスイッチ等の機能部品の破損に対して適用致します。尚、特別保証部品の詳細につきましては弊社指定の販売店、取扱店及びサービス店へお問い合わせ下さい。

3．保証内容
（要件）
次の３つの要件を充すものに限ります。
⑴保証期間内に、当該製品を構成する弊社純正部品及び指定部品に、材料又は製造上の原因により発生した故障又は破損。
⑵保証期間内に弊社の販売店、取扱店に届け出の上保証修理が認められたもの。
⑶購入後１か月目の無償点検が指定されている製品については、その点検済を証する書面を提示すること。
（内容）
⑴この保証書に示す条件に従って、弊社の判断により無償にて当該部品の交換又は補修を行います。
⑵保証修理により取り外した不良部品は、弊社の所有となります。

4．保証修理の受け方
保証修理の適用を認められたときは、次の手順に従ってください。
⑴お買いあげの販売店、取扱店又は弊社指定販売店に於いて修理を受けてください。
⑵その際、登録済の保証書及び２．⑶の書面の提示及び当該故障又は破損物品の提出がないときは、保証修理の対象になりませんのでご注意ください。

5．保証除外項目
保証期間内でも、次の項目の一つに該当するときは保証修理の対象となりません。
（指定外品、天災に起因するもの）
⑴弊社純正及び指定以外の部品又は材料を使用した為に発生したとみなされる故障又は破損。
⑵天災、地変、公害、航行中又は海送、陸送中の事故、その他弊社の責に帰すことの出来ない事由により発生した故障又は破損。
⑶一般的に機能上影響のない腐食、錆、オイルのにじみ及び感覚的な現象。（音、振動等）
⑷経時変化により発生した塗装、メッキ面等の自然退色、ひび割れ及びこれらに類するもの。
（取扱方法等に起因するもの）
⑴取扱方法、保守方法もしくは保管方法の誤り又は保管場所の不適切によって発生したとみなされる故障又は破損。
⑵日常点検、点検整備、定期交換部品の交換等が実施されていないために発生したとみなされる故障又は破損。
⑶弊社が定める使用制限規定（定員、積載量、馬力等）を超えて使用したために発生したとみなされる故障又は破損。
⑷レースに使用したもの。
⑸弊社指定の販売店、取扱店及びサービス店以外で行われたエンジン又は艤装品の取付けによって発生したとみなされる故障又は破損。
⑹弊社指定の販売店、取扱店及びサービス店以外で行われた修理、整備、改造によって発生したとみなされる故障又は破損。
（※）通常の使用状態において消耗するもの（パッキン、オイルシール、プロペラ、プラグ等）は保証修理の対象になりません。

6．保守、点検、整備
当該製品を安全に御使用いただくために、弊社で定める保守、点検、整備は取扱説明書及び整備手帳に定めるところに従いお客様の責任において実施していただきます。又、これらに要する費用はお客様の負担となります。

7．保証の継承
保証期間内にある中古製品を購入されたお客様は、保証書に記載されている弊社販売店、取扱店に保証書を提示の上、点検整備（有料）を受けることにより、残余の保証期間を継承することができます。

ヤマハ発動機株式会社
静岡県磐田市新貝2500

YAMAHA